わが子のあゆみ

仲良く小中入り交じって
ドッジボールを楽しむ

土岐市立濃南小・中学校

小学生中学生交えて仲良く遊ぶ昼休み

昨年度より、濃南小学校と濃南中学校は一貫校となり、小学校と中学校の垣根を越えた活動を盛んに行っています。小・中合同の活動には、合同運動会、合同音楽会、異学年授業交流、挨拶運動、休み時間コラボ活動があります。

旧中馬街道沿いに学校が立地していることから、中馬街道に関わる学習や地域の特産物について、地域の方と活動を通してふるさと学習を進めています。

2021.7
No.466
初夏号
第73巻1号
7

［ぎふしりつかたがたしょうがっこう］

岐阜市立方県小学校

方

●住　所　〒501-1109 岐阜市安食3丁目115番
●TEL　058-238-8611
●児童数　81名

〈地域の自然や風土〉

方県小学校は、岐阜市の北西部に位置し、自然が豊かで古い神社などが多い歴史ある地域にある学校です。明治六年七月に勤申義校として発足し、明治三十年方県尋常小学校となっています。昭和三十七年から歯の健康教育に取り組み、今もその伝統を大切にしています。

校舎

学校の教育目標

自ら学び、心豊かでたくましい方県の子

学校のたからもの① 地域の健康サポート

方県小学校は、伝統的に健康な歯を大切にする活動に取り組んでいます。

毎日、給食後に方県小オリジナル「三周みがき」の映像に合わせて歯磨きをします。どこを磨くかを映像で確認しながら、磨き残しのない歯磨きができるように取り組んでいます。月曜日には、PTAからいただくフッ化物を使って、映像に合わせて洗口を行います。

また、六月には、歯科衛生士による歯の勉強会、児童による歯への興味・関心を高める児童集会、納歯式を行っています。納歯式は昭和四十六年に立てられた「歯の塔」に抜けた乳歯を感謝の気持ちを込め、丈夫な永久歯が生えてくることを願って塔に納めるものです。フィルムケースに入った小さな歯を眺めたり、願いを込めながら歯を納めたりする姿から、歯を大切にする思いや、生え替わりへの興味を抱く姿が脈々と受け継がれていることが伺えます。夏休みには、PTA作成の歯磨きカードにより歯の健康維持に努めています。

年二回の歯科検診をはじめ、学校医、PTAなど関係する方々の協力を得て、充実した活動を行い、歯を大切にする意欲を高めています。

「納歯式」感謝と願いを込めて、歯を納めます

「歯磨き」黙々とていねいにみがきます

「川の環境調べ」
捕らえた魚から川の環境について考えます

「豆腐づくり」収穫した大豆を使って豆腐をつくります

「太鼓クラブ」地域講師の方の指導で立派に演奏できます

「ペアサポ」地域ボランティアの方と一緒の学習は安心して学べます

学校のたからもの② 地域の学習サポート

方県小学校は「コミュニティ・スクール」です。令和元年度には、文部科学大臣賞を受賞し、学校運営協議会を中心に、地域学校協働活動を推進しています。

「地域講師」

総合的な学習やクラブ活動では地域の方に講師をしていただいています。総合的な学習では、五年生が伊自良川の環境について学んでいます。川に入り、魚を捕まえて調べることを通して、ふるさと方県の恵まれた自然環境について理解を深めています。また、三年生は、地域の方に教えてもらいながら行う栽培活動を通して、方県地域のくらしの特色について理解を深めています。

また、クラブ活動では、「囲碁・将棋」「太鼓」など、地域の方と一緒に活動することを通して、楽しくコミュニケーションをとりながら質の高い学びをしています。また、毎月一回の読み聞かせも子どもたちの読書への興味・関心を広げる場となっています。児童は、地域の先生に親しみを感じながら様々な体験や専門的な指導を通して、知識を深め技能を伸ばしています。

「ペアサポ」

全校の希望する児童が、地域ボランティアの方と一緒に学習する場があります。児童は自分で決めた学習内容を進めます。大人が見守り、アドバイスをしながら自主的に学習する力を高めるようサポートしています。

学校のたからもの③ 地域の安全サポート

「見守り隊」

方県校区は大変広く、遠い地区から通う児童は一時間程度歩いて登下校しています。地域の温かいサポートは、子どもたち自身の安全への意識を高めることにもつながっています。

「熱中症予防」

登下校では、日傘を差しているものの、日光を遮る場所も少なく長い道のりを歩いています。暑い時期には、児童の健康管理のためにPTAの方から「塩分タブレット」を用意していただき、下校前に補給をしてから下校をしています。

[はしましりつほっつしょうがっこう]

羽島市立堀津小学校

●住　所　〒501-6330 羽島市堀津町617番地
●TEL　058-398-3294
●児童数　172名

〈地域の自然や風土〉

羽島市は、木曽川と長良川に挟まれた田園地帯に位置しています。また、名神高速道路岐阜羽島インターチェンジや東海道新幹線岐阜羽島駅のある交通の要所ともなっています。堀津小学校は、羽島市南部の自然豊かな田園地帯に位置し、明治六年に開校した歴史ある小学校です。

校舎

堀津

学校の教育目標

よく考えあたたかい心で伝え合い たくましくやりきる子

学校のたからもの①
地域から学ぶ「ふるさと教育」

地域の「ふるさと先生」から、次のようなことについて丁寧に教えていただいています。このような活動を通して地域の教育力を生かすことで、子ども達にはふるさとを愛する気持ちが育ってきています。また、地域との絆も深まってきています。

(1)畑づくり・作物の収穫

(二年生生活科、おおぞら学級)

「ふるさと先生」から、畑の土や畝作り、作物の植え方や育て方を定期的に教えてもらっています。また、収穫したサツマイモは家庭へ持ち帰り、活動の様子を報告したり、家庭での調理の様子を交流したりしています。

(2)「ふるさと先生」を講師とした総合的な学習の時間や生活科と関連した体験活動

一・二年生：堀津町老人クラブの皆さんと一緒に「昔の遊び体験」(あやとり・折り紙・お手玉・こま回し・おはじき・新聞かぶと等)

三年生：堀津コミセンのクラフトクラブの皆さんと一緒に「草木染体験」

四・五年生：福祉の学習として羽島市の福祉協議会の方と一緒に「手話体験」や五年生における高齢者疑似体験活動

畑作り(サツマイモの収穫)

琴の演奏体験

プランターの花道を通って登校

児童玄関前の6年生が育てた美濃菊

六年生：琴サークルの皆さんと一緒に「琴の演奏体験」

学校のたからもの②
豊かな自然に囲まれた「命あふれる環境」

豊かな自然環境に恵まれた地域の特徴を生かし、児童中心の花作りや生き物を育てる活動をしています。植物や動物を育てる活動を通して、地域の自然について理解を深めたり、命の大切さについても学んだりしています。

(1)花作り

美化環境委員会が中心となって、花作りを大切にしています。花壇やプランターに種から育てた花を植えて育てています。美化環境委員の子ども達は、毎日水やりなどの世話をしてきれいな花を咲かせています。全校の子ども達は、毎日登校時にその花を見ながら登校しています。

(2)地域の池を再現した学校の池

学校の校長室の前に、地域にある池「海洋池(みよいけ)」を再現した池があります。この池には、海洋池にいるコイ、フナ、モロコなどがいます。昨年度は、五年生が新型コロナウイルス感染症のためできなかった宿泊研修の代替として実施した池での「釣り体験」で釣った魚も池に放流しました。登校時や休み時間になると、魚に餌をやる子ども達の姿もみられます。生き物とふれあう貴重なひとときとなっています。

(3)美濃菊作り

羽島市は、大輪の美濃菊でも有名です。毎年、六年生が菊の苗を羽島美濃菊実行委員会からいただいて育てています。育て方を老人クラブの方に教えていただいて、秋には大輪の見事な花を咲かせています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため展示会は中止となってしまいましたが、例年十一月に行われる美濃菊展に出品しています。

魚への餌やりの様子

志授業 卒業生で地域の会社経営者の方のお話

志授業
卒業生の
フリーアナウンサーのお話

学校のたからもの③
生き方を学ぶ「志授業」

六年生では、様々な生き方をしてみえる方々に学校に来ていただいてお話を聞くことで自分の志をもつ「志授業」を行っています。地域の企業の経営者や卒業生のアナウンサーの方などに来ていただいてお話を聞いています。その生き方に学び、六年生は自分自身の生き方を考えます。卒業式の前に自分の志をまとめ、交流会を開いています。そして、卒業式で将来の夢を発表して、堀津小学校を巣立っていきます。

大垣市立墨俣小学校

［おおがきしりつすのまたしょうがっこう］

●住　所　〒503-0102 岐阜県大垣市墨俣町墨俣242
●TEL　0584-62-5402
●児童数　271名

〈地域の自然や風土〉

地域とのつながりから学び続ける　ふるさと墨俣

濃尾平野に位置する大垣市墨俣町は、大垣市の東に飛び地として位置します。

墨俣小学校区は、古くから墨俣宿として、鎌倉街道や美濃路の交通の要所として栄えました。校区は木下藤吉郎が一夜にして築いたと伝えられる町のシンボル的存在である墨俣一夜城のほか、季節の移り変わりとともに、町は、さくら・あじさい・つりびなと華やかに彩られます。春はさくらまつりやあじさい祭り、夏は天王祭、秋は出世祭りなど町のよさを感じる行事も盛んな校区で、地域の方ともつながりが深い学校です。

校舎

墨俣小学校北側の校区の様子
手前は寺町・写真左手は墨俣城、右手遠くに金華山

学校の教育目標

自分から正しく判断でき
豊かな心で世界へはばたく子
校訓「誠　実」

はじめに

令和二年度はコロナ禍で、地域での行事や地域の方とのつながりを大切にしてきた様々な活動が制約されました。そんな中でも感動のある体験や活動を工夫して創出することを目指してきました。令和二年度に地域の方とのつながりを大切にし、活動できたことを紹介します。

学校のたからもの①

「感謝」の気持ちを伝え続ける

一つめは、「感謝」の気持ちを育てる活動ができたことです。学校の再開が決まった令和二年度の六月、子どもたちにとって安心安全な学校にしようと、消毒作業をスタートしました。職員だけでなく、地域のボランティアの方も「子どもたちのためにできることがあれば」と、助けてくださいました。そうした地域の皆さんの毎日温かい行動に気付いた子どもたちが、一年を通じて学年毎、月替わりで「感謝」の気持ちを伝え続けることができました。そのつながりは、今現在も続いています。

1年生のお礼のペンダント

「たのしみは　友達のでる夢を見て　夢の続きを　見たくなるとき」

これは国語の時間に考えました。友達のでる夢を見たとき、夢の続きがいつも見たくなるからです。

学校の授業が楽しくできるのは、皆さんのおかげです。これからも努力して勉強をがんばります。

毎日ありがとうございます。これからもお願いします。

6年　　Kより

6年生のお礼の手紙

つりびなを作る6年生

芸術観賞会の様子

つりびなを見学する2年生

墨俣図書館司書の
読み聞かせの様子

学校のたからもの②

ふるさとの「すてき」を生かす

二つめは、地域の施設を活用し、子ども達の活動の場となり、つながりを身近に感じることができたことです。全ての行事が自粛ムードで中止となる中、体育館が密になるのであれば、地元のさくら会館を会場にすればよいと代案を考え、施設の利用をお願いして芸術観賞会「マリンバコンサート」を行いました。ふるさとの施設のすばらしさを再発見しました。訪れたさくら会館に併設する墨俣図書館では、低学年の児童が図書館司書に読み聞かせをしていただきました。地域の図書館に親しみをもち、読書に親しむ機会を増やすことができました。令和二年度は大垣市図書館とも連携した様々な活動が評価され、岐阜県西濃地区図書館奨励賞を受賞しました。

学校のたからもの③

ふるさとで「貢献」することを目指す

三つめは、春の訪れを知らせる恒例のふるさと墨俣の行事「つりびな小町めぐり」に全校ぐるみで参加できたことです。コロナ禍でも、活気あるふるさと墨俣を目指して活動を続ける「生き粋墨俣創生の会」の皆さんに、六年生の子ども達がつりびな作りを教えていただきました。本年度は、コロナ退散を願い「アマビエ」をモチーフにしたつりびなを職員も作りました。「つりびな小町めぐり」開催中は、町探検に出かけたり、俳句コンクールに参加したり、子ども達自作のつりびなが町を飾って、地域を盛り上げました。地域の方から、コロナ禍を吹き飛ばそうと活気を生み出し、ふるさと墨俣のよさを発信しようと取り組むすばらしさを学びました。

おわりに

これからも、地域の人とのつながりを深め、地域のよさを学び、子ども達自身も貢献できることを考え、自ら行動できる人材づくりをしていきたいと思います。

生き粋墨俣創生の会の皆さんからつりびなの作り方を学ぶ職員

[ぐじょうしりつたかすちゅうがっこう]

郡上市立高鷲中学校

●住　所　〒501-5303
郡上市高鷲町大鷲284番地14
●TEL　0575-72-5017
●生徒数　80名

〈地域の自然や風土〉

高鷲町は郡上市の最北部、清流として名高い長良川の源流に位置し、東には鷲ヶ岳、西には大日岳がそびえる、静かな山あいの町です。長い開拓の歴史が高鷲中学校の学校教育目標「拓く」にも表れており、その精神は町内全域で受け継がれています。三白産業（「大根」の白、「牛乳」の白、「雪」の白）を中心に農業を基盤とした観光産業が盛んな地域で、「白山国立公園ひるがの高原」地帯は夏は避暑地として、冬はスキーやスノーボード等、ウィンタースポーツのメッカとして全国からの観光客に親しまれています。

校舎

全員参加の授業

朝の挨拶運動
令和3年度ふりふり挨拶

学校の教育目標

拓く
- 進んで学ぶ生徒
- 思いやりのある生徒
- 強い意志でやりきる生徒

はじめに

本校は、お互いを大切にする温かさ、自分たちでできることを考え、やりぬく一生懸命さを大切にして教育活動を進めています。そして、どの活動も家庭や地域の方とつながりを大切にしています。周りの人々に支えられていることに感謝して、さらにつながりを深めていけるよう、努力していきます。

学校のたからもの①

「高鷲中オリジナル挨拶運動」

高鷲中では地域の方、校区の小学校とも連携した「ハイタッチ挨拶」に取り組んできました。しかし、コロナ禍では実施できないため、それに代わる活動を生徒会が中心となって話し合い、「ひじさん挨拶」（肘でタッチして、○○さんと名前を呼んで挨拶する）「ふりふり挨拶（両手をふって挨拶する）」に取り組んでいます。

毎朝、生徒会のメンバーだけでなく、挨拶ボランティアの生徒もたくさん立ち、登校する生徒と明るく挨拶を交わしています。

学校のたからもの②

「高鷲中人権宣言」「高鷲中SNS宣言」

全員がお互いを大切にする学校をめざして「高鷲中人権宣言」を確認し合い、自分や仲間の姿を見つめる場として人権集会を行っています。この人権集会は「悲しい思いをしている子がいるから何とかしたい」という先輩の思いから始まりました。「高鷲中SNS宣言」も生徒会が中心となって、SNSでお互いを傷つけ合うことをやめる、時間を自分で決めて使用するなど、お互いを大切にしてつながるための約束を決めています。

人権集会

1年生森林教室

昨年度の体育祭より

スキー場清掃活動

学校のたからもの③

自分たちで考え、やり抜く高鷲中の行事

コロナ禍のなか、昨年度の体育祭は三年生が中心となり、企画、運営しました。制限がある中でも「全校が心をひとつにして取り組める体育祭」ができるよう、種目等の実施内容について何度も見直して行いました。特に種目については感染対策をしながら、縦割り団の団結を深められるものを考えました。コロナ禍であっても「何ができるか」を自分たちで考え、動き出した三年生の姿は高鷲中の新しい伝統になりました。

校庭でのクロスカントリーの授業

学校のたからもの④

高鷲中の地域の特色を生かした教育活動

①スキー・スノーボード教室

校区には四つのスキー場があります。スキー場の方にお世話になり、毎年スキー・スノーボード教室を実施しています。春にはお礼の気持ちを込めてスキー場清掃をするなど、地域の方との連携も深めています。

②クロスカントリーの授業

冬は全学年、保健体育でクロスカントリーの授業を行います。道具等は地域のスキー場でお借りしています。昨年度はグランドの雪の量も多く、充実した学習となりました。

③「郡上」を深く知る学習

一年生の研修は郡上八幡散策、ラフティング体験、二年生は地域の方を招いての職業講話、三年生の総合学習では「高鷲町の活性化に向けて」をテーマのひとつにしています。

こうした「郡上」を深く知る学習を通し、「高鷲中の郡上学」の実践を進めています。

ラフティング体験

3月号を読んで

「心に火をつける先生」…私が中学生の時の数学の教科担任の後藤先生。
当時、地元出身で定年間近な先生ばかりの中、後藤先生の赴任により、学校内の風通しが良くなりました。数学のおもしろさに目覚める生徒も増え、数年間、学年の7～8%が国立高専へ進学しました。アーチェリーで東京大会に向けて頑張っておられるそうです。
当時、良い事悪い事、色んな話をしてくださいました。変わっている先生ではありましたが、一番子どもたちに寄り添ってくれた先生です。　Hさん

「あゆみ」を読ませていただくたびに「先生との出会い」は大切だと思いました。今、先生になられている方が、学生の時にその先生との出会いから教職を目指すようになった。先生の一言から考え方を改めたという文章にたくさんの感謝の気持ちが伝わってきました。
連載の「私の先生」は今回も素晴らしい内容でした。私の小学6年の娘は今、彼女の人生、良い方に進めるよう「努力する」「よく考える」「実行してみる」を担任の先生から教えてもらいました。自信を持って中学校生活を送ってほしいです。　Sさん

2011年3月11日に起きた東日本大震災では、多くの犠牲者が出ました。
宮城県の大川小学校で、全校児童108名中74名もの小さな命が奪われたことを知りました。安全なはずの小学校で…同じ子どもをもつ親として悲しい気持ちになりました。
災害時の避難マニュアルは、教員、保護者、児童もしっかりと共有しておかなければと思いました。　Iさん

「3.11を学びに変える」吸い込まれるように読んでしまった。同じ娘を持った親として、命の尊さを重さを身に染みて感じた。あの津波から学んだ避難の大切さ、「念のため」の行動。もう一度、子どもとしっかり話すきっかけになった。　Tさん

ひじきとそぼろの炒め煮をおいしそうなので、週末に娘と一緒につくります。　Tさん

ひじきとそぼろの炒め煮、とてもおいしそうです。そぼろと一緒なら子どももたくさん食べそうです。　Kさん

教育の窓に感銘を受けました。私も習った先生達のことは、未だに忘れていません。子ども会役員や専門委員長になり来年度からのことが不安でしたが、この先生達のように、子どもたちと向き合っていける役員を目指したいです。　Fさん

もくじ　わが子のあゆみ　2021.7 No.466 初夏号

表紙　土岐市立濃南小・中学校
1　**学校のたからもの**
岐阜市立方県小学校／羽島市立堀津小学校
大垣市立墨俣小学校／郡上市立高鷲中学校
11　**特集**　「親子で　サイエンス！」
17　**みんなで家庭教育！**
岐阜県環境生活部環境生活政策課
18　**先生！ありがとう！**
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
河出 晴菜
19　「多様性尊重の教育⑲」
みんな、いっしょに　安田 和夫
21　**保健室ノート**　廣瀬 明子
23　**私の先生㊹**　三尾 彩那
25　**わが家の宝物**　吉井 政樹
26　**リレーエッセイ⑭**　飯沼 英樹
27　**子育て半生記**　松尾 寛之
29　**楽しい読み聞かせ⑬**　岐阜市立常磐小学校PTA
31　**親の背中⑧**　髙田 和良・伊藤 孝之
33　**私が出会った1冊の本【続49】**
渡邉 晴代・佐村 友里江
35　**子の思い**　日比野 向・佐古 薫音・加藤 舞
親の願い　進藤 亙・足立 聡
教育の窓　伊藤 由美・藤澤 克彦
40　**話そう!語ろう!わが家の約束**　野村 美香・辻 理恵子
41　**親子ではてな**
42　**お試しクッキング**　岐阜県学校栄養士会
43　**ふるさとの伝承**　岐阜市立茜部小学校
45　**きらり！キッズ！**　大垣市立北小学校
47　**夢中！熱中！我らが部活**
関市立津保川中学校／関市立富野中学校
49　**私たちのＰＴＡ**　羽島市立正木小学校ＰＴＡ

森が戻ってきた。
鳥や虫や動物が戻ってきた。
みんなに笑顔が、戻ってきた。

再生プロジェクトを行っているパリヤン地区の小学校の児童から贈られた絵。
「わたしたちを守って！」という動物たちのメッセージをこめて、描いてくれました。

インドネシア熱帯林の再生プロジェクト
きっかけは、私たちが毎日使っている紙の原料となる木材を
少しでも地球に返したいという思い。
たくさんの生き物が暮らす森を取り戻すことで
地球温暖化を防ぎ、生物多様性を守ること。
そして、地元の人々の生活を助けること。
地元の子どもたちの明るい笑顔を力にして
私たちは これからも、未来を育む活動をつづけていきます。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上
三井住友海上火災保険株式会社　www.ms-ins.com

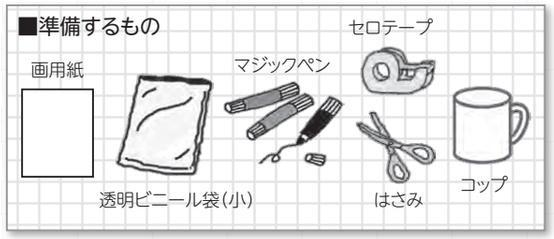
特集「親子で　サイエンス！」

岐阜県PTA連合会では、今年度の重点の1つとして、家庭教育の充実（コミュニケーションを大切にする）を掲げています。学校での出来事や新聞・テレビで見たニュース、身の回りにある疑問等を、少し意識しながらとりあげ、親子で取り組んだり、考えを伝えあったりしてみる。そんな些細なことの積み重ねが、家庭内のコミュニケーションを深めるとともに、身の回りのことに対する興味や関心を、相手の話を聞き自分の考えを深めようとする意欲を高めます。親子で一緒に考え、より良いものを目指して改善していくといった「主体的・対話的な学び」に、ぜひ親子で挑戦してみてください。

（岐阜県PTA連合会　編集部）

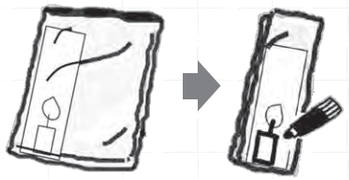
実験1「なぜ、火が消えるの？」

■準備するもの

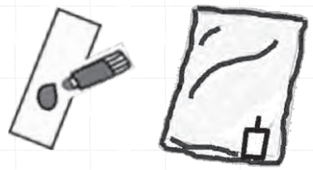


①画用紙をコップに入るくらいの大きさ（4cm×10cm程度）に切り、下から5cmほどの大きさのろうそくの絵（下書き）を鉛筆で描きます。

②①の画用紙を袋に入れ、袋を紙の幅で折りたたみ、下書きに沿って、炎以外のろうそくだけをマジックペンでなぞります。



③袋から画用紙を取り出し、炎に色を付け、ろうそくの絵は消します。下の図のように、画用紙に炎、ビニール袋にろうそくの絵が残ります。



※紙に描いた絵が消え、袋の絵が残ります。いろいろな絵を工夫して試してみよう。友達もびっくりするよ。

④再び、画用紙を袋に入れ、袋を紙の幅で折りたたみ、袋の端をセロテープで張り合わせると完成です。

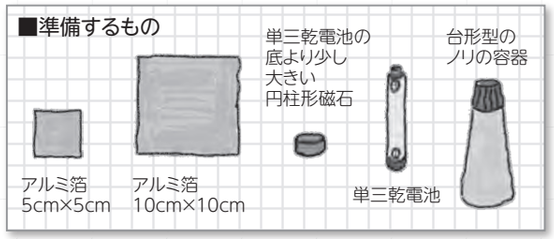
⑤右図のように、斜め上から見ながら、④で作った物をコップの水の中に入れます。炎が消えてしまいます。

Q−1　火は消えたのだろうか？
Q−2　⑤の状態で、絵を見ながら袋の中に水を入れていくとどうなるかな？

★キーワード【　全反射　】

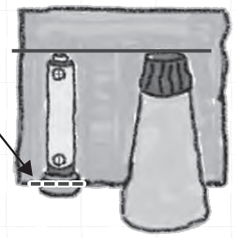
実験2「なぜ、筒は回るの？」

■準備するもの



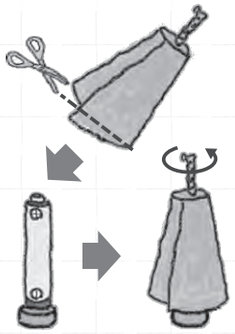
①5cm×5cmのアルミ箔で円柱型磁石を包み、その上に乾電池を置きます。

②10cm×10cmのアルミ箔の上に①（磁石と乾電池）を点線のように磁石が半分はみだすようにして置き、電池の最上部に実線を引きます。



③②のアルミ箔に引いた線とノリの容器の最上部が重なるように置き、アルミ箔で容器を包み、線より上の部分をねじって、図のような筒を作ります。

④筒が机の上に立つように、余分な部分（点線）を切り取ってから、アルミ箔の筒を乾電池にかぶせます。



※危険！
実験が終わったら、アルミ箔の筒は必ず乾電池から外してください。ショート回路といい、電池が熱くなります。

Q−1　よく回るようにするにはどうすればいいかな？
Q−2　回る向きを逆にするにはどうすればいいかな？

★キーワード【　フレミングの左手　】【　右ねじの法則　】

「回る、回る」

中有知小学校PTA　斎藤 慎也

私は子どもと一緒にアルミ箔と電池、磁石を準備して作ってみました。

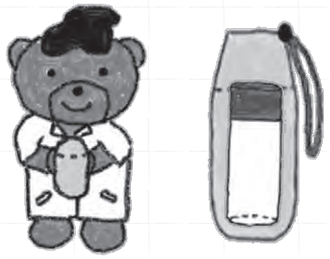
電池の上にアルミ箔をかぶせると、アルミ箔が回る回る!!　親子揃ってビックリです。

もっと良く回るようにするには？と私が訪ねると、子どもたちはいろいろとためし始めました。

アルミ箔を短くしたり、先端のねじりを長くしたり、磁石を強力にしたり、増やしたり、反対にしたりと。親子で、実験をしながら、いろいろと考えることができ楽しい時間を過ごすことができました。

実験３「なぜ、バターができるの？」

■準備するもの



①冷やした生クリーム200mlを入れた容器をペットボトルホルダーに入れます。
※ホルダーがなければ、手の熱が伝わらないよう、容器の上の方を持って振りましょう。また、マヨネーズの容器を使用する時は、ふたが開かないようにテープなどで固定しましょう。

②しっかりふたをして、上下・左右、回したりととにかくよく振ってね。8分ほどで「バシャッ」から「ボコ」へと音が変わります。12分ほどで音がしなくなります。ここからが我慢です。

③中身を時々確認しながら（交代）振り続けます。すると、突然「バシャッ」「コンコン」と音が聞こえるようになります。こうなったら完成です。1人でやった僕の場合は、音がしなくなってからここまで30分ほどかかりました。家族みんなで交代しながら振れば、きっともっと早くできるよ。

④容器を取り出すと、固体と液体に分かれています。固体がバターですが、液体（ホエー）にも栄養がいっぱいです。とりあえず飲んでみましょう。どんな味かな？　容器の中に塩を一つまみ（2g）入れ、数回振ってバターになじませたら完成です。保存料が入っていないので、賞味期限は3日間ほどです。早めに食べてね。

※危険！
容器をカッターなどで切断する時は家の人に切ってもらいましょう。

Q−1　生クリームはどこへいってしまったの？
Q−2　生クリームの乳脂肪を45%のものに変えるとどうなるのかな？

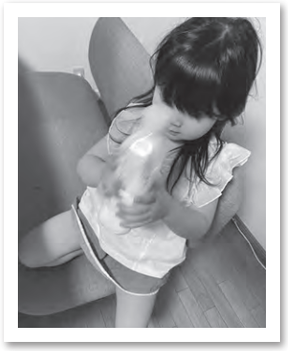
★キーワード【　乳脂肪のしょうとつ　】

「みんなで」

石津小学校PTA　今中 亜弓

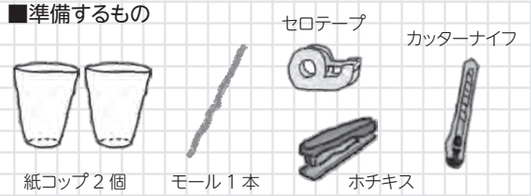
初めてバター作りをしました。三十分程かかると書いてあったので大変だとは思っていましたが、長男、夫にも協力してもらいひたすら振ってなんとかバターになりました。液体の味はさっぱりとした牛乳でした。出来上がったバターも脂っこすぎない、ミルク感強めなお味でした。普段買って食べている物がどのように出来ていくのか知る事が出来、貴重な経験になりました。

また既製品とは違う手作りの味も良いなと思いました。何より家族みんなで一緒に出来る事が、一つの思い出となるので是非やってみてほしいです。

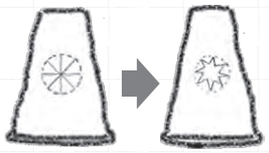


実験４「なぜ、モールは動くの？」

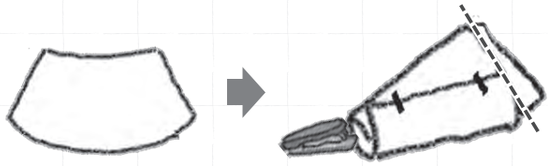
■準備するもの



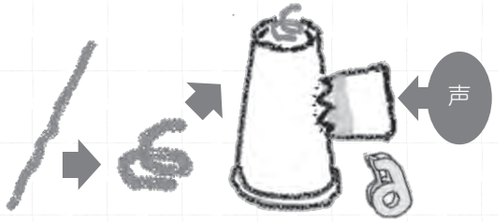
①右図のように、紙コップに直径4cm程度の円と実線を書き、実線をカッターで切ります。できたら、円にそって外向きに折り曲げます。



②もう1つの紙コップの底を切り取り、右図のように広げます。底の方が直径3cmくらいになるように丸め、ホチキスで止めてメガホンを作ります。余分な部分（点線）は切り取り、①のコップの穴に差し込み、セロテープでくっつけます。



③モールを7〜8cmの長さで切り取り、図のように巻いてヘビのような形にします。これを紙コップの底の上に置き、メガホンに向けて声を出すと、モールが動き出します。



※大声を出すので、ご近所迷惑にならないように気を付けてね。

Q−1　どんな声だとよく回るの?声の大小・高低を変えて実験してみましょう。
Q−2　コップに塩を置いて声を出してみよう。なぜ回るか分かったかな?

★キーワード【　振動　】【　振動数　】

「二人で工夫しながら…」

藍見小学校PTA　服部 嘉彦

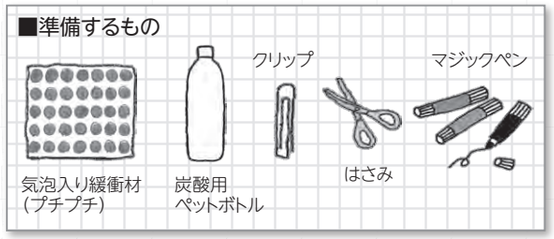
筒を差し込む穴の下書きがうまくできず曲面に合わせることが難しいために紙コップをうまく固定する方法を考えてテーブルにテープで固定してうまくいきました。

差し込みの深さは紙コップの1／3程度とし角度はほぼ直角になりました。モールの動きは声の高さを変えてもあまり動きに変化はなかったですが声を大きくすると動きが激しくなりました。結果として、モールは軽量にして小さく作り声は低音、高音にかかわらず大きいほうが良く動きました。

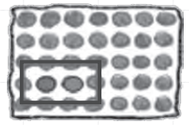
出来上がったもので子どもたちは叫びながら楽しく遊んでいましたが親としてはやかましかったです（笑）

実験5 「なぜ、気泡は浮き沈みするの？」

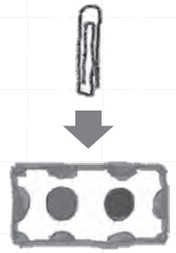
■準備するもの



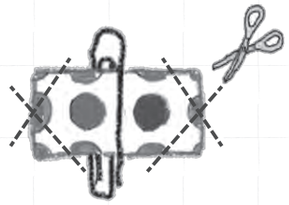
①右図のように、気泡が2個（色を付けておくといいよ）残るように長方形に切りとります。



②切り取った気泡の真ん中をクリップで挟みます。気泡に穴が開かないようにしてね。



③作ったクリップ付気泡をコップの水に入れ、クリップの頭が水面から少し出るくらいになるように四隅を切って調節します。



※プチプチの数が多ければ、クリップの数も増やしてね。

④水を口元までいっぱいに入れたペットボトルに③で作ったクリップ付気泡を入れ蓋をします。ペットボトルをつかみ、つぶすように力を加えてみよう。

Q−1　ペットボトルを押したり離したりすることで気泡（プチプチ）に何がおこっているのだろう?
Q−2　魚の形に切ったりすると、水族館みたいになるね。挑戦してみよう!

★キーワード【　アルキメデスの原理　】【　浮沈子　】

「魔法のペットボトル」

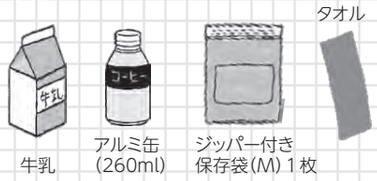
蘇原小学校PTA　柘植　葉子

「おとうさんが、まほうつかいになった!」とビックリした娘。ペットボトルを押したり離したりすると、クリップが上下に動くことがとても面白かったようです。水ではなくお湯にかえたり、ペットボトルを押す位置や力を変えてみたりと、親子で一緒に考え、やってみる。とても楽しくいい体験になりました。

この実験を通して、次はこうしたい、やってみたいなど、自分の考えが広がることも素敵だなと思います。

実験6 「なぜ、牛乳が凍るの？」

■準備するもの



牛乳　アルミ缶（260ml）　ジッパー付き保存袋（M）1枚

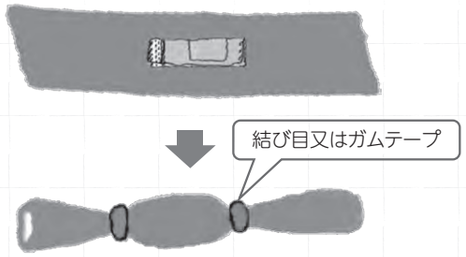
■その他
・塩・砂糖
・氷
・バニラエッセンス

①コーヒーの空き缶（アルミ缶）に牛乳100ml、砂糖大さじ1、バニラエッセンス2〜3滴を入れ、ふたをしてよく振り、砂糖をとかします。

②氷1カップと食塩大さじ2杯半をジッパー付き保存袋（M）に入れ、手で揉んでよく混ぜます。

③②の袋の中に、①の缶を入れて、空気が入らないように口を閉じます。

④③をタオルで巻き、結び目（ガムテープ）を使ってタオルの中に固定します。



⑤タオルの両端を持って、約1分間ぐるぐると振り回します。

⑥振っても音がしなくなったら完成です。

※氷は、スーパーで買い物をしたとき、保冷用にいただいた残り物を使いました。氷が小さいため缶と氷の密着度が高くなります。

Q−1　なぜ、氷に食塩を入れるんだろう?
Q−2　食塩の量を変えるとどうなるの?　砂糖ではだめなのだろうか?

★キーワード【　融解熱　】【　凝固点降下　】【　凍結防止剤　】

振っただけでおいしいアイスができた!

真桑小学校PTA　和性　真澄

空き缶に材料を入れるのは六年生のお姉ちゃん。氷と塩を袋に入れるのは一年生の僕。二人が大好きなオレオを砕いて入れ、オレオアイスにしようということになりました。張り切って振ったらオレオは溶けたのか?茶色いチョコレートアイスになりました。

材料を入れて振っただけでカチコチのアイスになり、不思議な体験でした。

氷に対して入れる塩の量が多いことに母は驚きました。できたアイスに苺を乗せて、ワクワクしながら食べました。あっさりしていて美味しかったです。

家庭で子どもに教えたいことや、育みたい力など、
家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育！

インターネットトラブルから子どもを守る

～「わが家の約束」を作りましょう～

近年のパソコンやスマートフォンの普及はめざましいものがあります。また、GIGAスクール構想の下で、一人一台端末も整備されつつあります。令和二年に内閣府が行った調査では、満十歳以上の小学生の90・5％がインターネットを利用していると回答しています（令和二年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 内閣府）。

学習に生かしたり、コミュニケーションが手軽にとれるようになったりする一方、インターネットによるトラブルも多数報告されるようになりました。前出の調査では「インターネットにのめりこんで勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりしたことがある」「悪口やいやがらせのメッセージやメールを送られたり、書き込みをされたことがある」等、満十歳以上の小学生の22・4％が何らかのインターネットにおける望ましくない経験があると回答しています（中学生では40・6％、満十七歳までの高校生では61・6％）。

こういった状況に対し、学校では、インターネットの適切な利用方法が身につくように指導したり、学校に整備された端末には有害サイトへの接続等ができないようにする機能を設定したりしています。

しかし、実際に子どもたちがインターネットを利用する場面は家庭が最も多いと考えられます。そのため、保護者も子どものインターネット利用状況を見守り、適切な使い方等を教えていく必要があります。具体的な方法として、インターネット利用に関する「わが家の約束」作りを提案したいと思います。

前出の調査では、満十歳以上の小学生の80・3％が「インターネット利用について家庭で何らかのルールを決めている」と回答しています。ルールの内容として最も多いのは「利用時間」に関するもので、「困った時の相談」「利用料金や課金」「サイトやアプリの内容」「利用する場所」「個人情報の流出防止」「送信・投稿の内容」「メッセージの送信相手」と続きます。これらの観点で「わが家の約束」を作ってみるとよいでしょう。

また、約束の作り方にもポイントがあります。大人が一方的に決めるのではなく、子どもと一緒に作ることです。そうすることで、子どもは約束の意味を理解し、守ろうとする意識が高まります。また、自ら知識やモラルが高まり、自ら適切に判断し、行動できるようになるはずです。

また、約束は、子どもの成長や生活リズムの変化等、子どもの実態に合わせて見直していく必用があります。

こう考えていくと、「わが家の約束」づくりとそれを守っていく取組は、保護者が子どもと対話し、子どもを見守っていくことの実践に他なりません。

結局、「親子のコミュニケーション」こそ、子どもをインターネットのトラブルから守り、インターネットを適切に利用する能力を伸ばしていくポイントなのだと言うこともできるでしょう。

環境生活政策課 家庭教育担当
山森 邦久

☆次のポイントを意識して、インターネットについての「わが家の約束」を作ってみましょう。

インターネットについての「わが家の約束」づくりポイント

一 「ルールがトラブルから自分自身を守ってくれる」ことをきちんと伝える。
二 お互いに納得できるよう、話し合って作る。
三 子どもが守れるルールを作る。
四 具体的なルールをつくる。
五 守れなかったらどうするか決めておく。
六 トラブルがあったら保護者に相談するように決めておく。

文部科学省委託事業 情報モラル推進事業 保護者用啓発教材
「話し合っていますか？家庭のルール」

「話そう！語ろう！わが家の約束」実践カード
https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/91776.pdf

ゲームと上手につき合うには！～「話そう！語ろう！わが家の約束」運動、取組の前に～
https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/221742.pdf

先生！ありがとう！

～保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ～

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症のため、まだまだ先の状況が予測しづらい世の中です。

先生方におかれましては、子どもの教育以外に、感染対策の為の業務が増えており、多くのご負担をおかけ致しております。

このように子ども達の為に、さまざまな感染対策を講じながら教育活動を行なってくださっているおかげで、子ども達の対策意識も高まり、この状況下でも安心して学校生活を送ることが出来ております。本当にありがとうございます。

なかなかコミュニケーションが取りづらい中ではありますが、マスク越しでも先生方の子ども達へ向けられる笑顔や優しい声のトーンを感じています。

日々、先生方の優しさや思いやりに気付き、感謝の気持ちをもってこれからも学校生活を送れるように、子ども達へ伝えていきたいと思います。

（河出 晴菜・瑞穂市立中小学校PTA会長）

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお送りください。

宛先はいずれも　〒500−8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度初め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■9月号のお知らせ（予告）

特集=定期大会講演「社会の変化とこれからの子育て（前編）」／表紙=春里小／学校のたからもの=苗木小・西小・西郷小・揖東中／わが家の宝物=市之倉小／リレーエッセイ／みんなで家庭教育／みんな、いっしょに／保健室ノート=稲羽東小／私の先生=岐阜特別支援学校／子育て半生記=東江小／楽しい読み聞かせ=相生小／親の背中=弾正小・上之郷中／1冊の本=山岡小・古川中／わが家の約束=南小・江並中／子の思い=山口小・日野小・竹鼻中／親の願い=結小・富野中／教育の窓=北小・白川中／先生!ありがとう!=小泉中／お試しクッキング／ふるさとの伝承=久々野中／きらり!キッズ!=長森南小／夢中!熱中!我らが部活=北中／私たちのPTA=妻木小

【多様性尊重の教育⑲】シリーズ
みんな、いっしょに

子どもの笑顔につながる巡回相談

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授　安田 和夫

A市の巡回相談を担当して

数年前から、県内のA市の巡回相談を担当しています。これは、市内の小中学校へ、専門家チームが訪問し、様々な困難さを抱えている児童生徒について、ケース検討会をおこなうものです。訪問するチームは四名で、医師、大学の教員、特別支援学校地域支援センター職員、教育委員会担当者の四名を基本にしています。それぞれが違う専門性を有しており、授業観察や、校長先生をはじめとする学校関係者の皆さんとの懇談を通じて、対象児童生徒の理解のあり方や、取り巻く環境要因の分析を進め、適切な関わり方や支援方法を見いだしていくことになります。

このA市の巡回相談のよいところは、限られた時間をうまく使って、専門家チームも学校関係者も、ケース検討会を通じていっぱい勉強できることであり、結果として、そのことが児童生徒へのよりよい支援につながっているということです。

専門家チームの助言内容から学ぶこと

私自身、医師の方々の見方・考え方や具体的な助言内容に多くを学んでいます。生理・病理的な側面からの専門的なご助言であることはもちろんのことですが、地元の小児科医や精神科医の先生方ですので、地域の実情や学校教育の現状を踏まえた的確なご指摘ご助言で、参会者にとって、納得のいく内容ばかりです。

また、特別支援学校地域支援センター職員は、長年の教員経験と心理学の知見を発揮して、子どもの観察や担任の報告などを丁寧に読み解いて、具体的な支援内容を提案していきます。また、その提案には、必ず「理由」「要因」が列挙されているので、聞いている学校関係者にとって、わかりやすい内容ばかりです。

そして、この巡回相談を担当する教育委員会担当者は、特別支援教育の専門家であり、子どもの理解と対応にとどまらず、学校の体制作りや管理職のバックアップにも心を砕いており、学校関係者からとても頼りになる存在です。また、事業効果を評価するため、巡回相談の成果があがっているのか聞き取りを行うなど、前回の巡回相談とそれ以後の取組を「つなぐ」意識を高めるところが素敵だと思います。

その中で、私自身は、学校関係者の方々が元気になれる助言ができればと考えています。授業観察の子どもの様子や掲示された絵や文章などから気づいたことをお伝えするとともに、学校の先生方に質問をしながら、問題解決の筋道を提示していきます。そして、担任の先生のこれまでの取組を労いつつ、いわゆる気がかりな「問題行動」が子どものメッセージと解釈し、根底になる不安や怒り、混乱や焦りなどを、どう軽減していくことができるのか、子どもの変容につながる可能性を見いだしていくことに努めています。

素敵な先生方との出会い

今年度になって訪問した小学校で、ケース検討会の後半、前回のケース検討会に上がっていた児童のその後の様子について話題となりました。その時、校長先生がこんな発言をされました。

「あの児童は、この一年、本当にめざましい成長をしました。まるで別人のように思えるほどです。前回の巡回相談でのご助言を受けて、担任が具体的にねばり強く、取組を続けた結果だと思います。」

そして、同席していた当時の担任の先生が、こう続けました。

「あの頃、私は、彼の気がかりな言動ばかりにとらわれていましたが、彼は彼なりに頑張っていることを見過ごしていたことに気づきました。そこで、具体的にできていることを認め、お母さんにも、その様子を伝えるようにしました。すると、本人は、自分の頑張っていることをお母さんからも認められたことがうれしそうでした。そして、少しずつ、授業に集中して参加できるようになり、自分の気持ちをコントロールすることができるようになりました。いまでは、自信がついてきたようで積極的にいろいろなことにチャレンジしています。」

私は、この一年間の担任の取組、該当児童の成長をしっかりと見守り続け、高く評価されている校長先生も、巡回相談をきっかけに、子どもに対する自分自身の見方や関わり方を謙虚に見つめ直し、子どもや保護者との関係づくりからはじめた担任の先生も、本当に素晴らしく輝いて見えました。

巡回相談は、障がいのある子どもを見つけ出すことを目的としているわけではありません。学校の先生方が、ケース検討会を通じて、気づきと学びを共有し、明日からの子どもとの関わり方や具体的な支援の改善につないでいくことであり、「よし、これならできそうだ！」「一歩踏み出してみよう！」と明日への意欲を高めていただくことだと思っています。先生が元気になる、子どもと笑顔で接することができる、このことが「変化」を生み出していくのです。

新小学校学習指導要領総則より

現在、通常の学級にも、様々な障害や疾患などにより、学びにくさや生活のしづらさを抱える児童生徒が多く在籍していることを踏まえて、平成二十九年に改訂された小学校学習指導要領（中学校も同様）では、「障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。（総則）」としています。巡回相談も、まさに、この「特別支援学校等の助言又は援助」にあたります。

そして、「このような障害の種類や程度を的確に把握した上で、障害のある児童などの『困難さ』に対する『指導上の工夫の意図』を理解し、個に応じた様々な『手立て』を検討し、指導に当たっていく必要がある。」と記載されています。

県内の多くの市町村や学校では、この夏休みに、特別支援教育の研修や講演会が企画されています。どの子もが笑顔になれることを願い、先生方も学び続けておられます。

保健室ノート

美濃加茂市立加茂野小学校
養護教諭
廣瀬 明子

心配なこともたくさんあり、日々変化が著しい毎日ですが、加茂野の子どもたちは元気いっぱいです！その秘訣は、「自分で考えること。自分の命は自分で守ること。」です。

「おはようございます！」

「おはようございます！今日も、元気だね。」

マスク越しでも聞こえる元気な子どもたちの声。あふれる笑顔ビームで、加茂野小学校の一日がスタートします。健康チェックカードの確認を終えると、元気よく教室に向かう子どもたちの姿に、「今日も始まるぞ！」と気合が入ります。

美濃加茂市立加茂野小学校は、全校児童七百三十六人の大規模校です。周りの環境はとても静かで、過ごしやすい場所にあります。

近くには、天乳（あまち）池という用水池もあり、かわいい鴨（カモ）が優雅に泳いでいます。加茂野（かもの）小学校のシンボルマーク「かもるくん」は、加茂野のかもと、鳥の鴨のかもが由来です。児童数は多いのですが、大きなけがは少なく、校内も静かでとても落ち着いています。休み時間になると、子どもたちが元気よく運動場に遊びに行きます。そのうれしそうな姿を見ると、とても元気が出ます。子どもたちの、静と動の切り替えには驚きます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、二か月間の臨時休業となりました。私は、昨年度、加茂野小学校に赴任したため、子どもたちに会えない二か月を本当にさびしく過ごしました。大きな声であいさつができない状況の中、マスクをしていて声もはっきり聞こえないため、「アイコンタクトあいさつ」からのスタートでした。「話してはダメ」「人に近づいてはダメ」という、今までとは違うルールに、子どもも、大人も戸惑いながらの生活でした。しかし、子どもたちは、本当に先生の話をよく聞いて、自分で考えて動こうとしていました。何をするにも手洗い・消毒をする日々が続き、「新しい生活様式」も変わるごとに確認をしながらすすめていかなければなりませんでした。

昨年度は、新型コロナウイルス感染予防だけでなく、夏休み期間の縮小に伴って八月の酷暑の中での学校生活でした。朝から、気温が三十度を超える日もあり、熱中症予防も呼びかけていきました。登下校時は、「傘をさす」「水分補給をしっかりとする」だけでなく、「家庭での生活リズムを整えていただく」ことも、保健だよりや、学校メールで配信しました。学校では、美濃加茂市の熱中症指数を毎日休み時間に放送し、子どもも、今の熱中症指数は何度か、レベルは何か（三十一度以上だと危険レベル）を知ることで、「今は何度だから運動禁止」ということを判断し、自分で考えて行動できるようになりました。ただ、「運動禁止の放送が流れるから」「先生がダメと言うから」ではなく、実際の数字を伝えることで、子どもが自分で考え、判断することができました。

加茂野小学校では、こんな子になってほしいと子どもたちに伝えています。

一つ目は、「体がつらくなったときに、早く先生にお話する」〝いえーるくん〟。

二つ目は、「早寝、早起き、朝ごはん」「石けんで手をきれいにあらう」「ハンカチをもってくる」「マスクをずっとする」「窓を開ける」「体をいっぱい動かす」を〝まもるくん〟。

三つ目は、「体がつらそうな友だちに、大丈夫？とやさしい気持ちで声をかけてあげる」「自分が言われたら悲しい言葉は絶対に言わない」〝ポカポカさん〟。

これらを守ることが、「自分の命は、自分で守る」ことにつながると、ことあるごとに伝えています。

今年度も、昨年度同様に新型コロナ感染拡大防止に高い意識をもち、自分の命を自分で守る子どもたちを育てていきます。「てまきずし」（手洗い・マスク・距離をとる・ずーっと換気・手指消毒）を合言葉に、注意喚起と見届けをしていきます。

日々学校生活も変化し、家庭での生活環境も変わり、ストレスや不安を抱えながら生活している子どももいると思います。元気そうに見えても、時々、元気がなかったり、体調不良を訴えたりする子どももいます。早めに家庭との連携を図り、子どもたちを見守り続けたいと思います。

私の子育ての体験から、子どもが不安そうな時、ゆったり過ごさせてあげたいなぁという時には、かならず絵本を一緒に見るようにしています。お話の中身を一緒に話しながら、共感して過ごしています。まだまだ、コロナ前のような日常生活でなく、家の中で過ごす時間も多くなります。その時間に、「親子で本を読む。」ことで親子の触れ合いも増え、子どもの心の安心にもつながるのではないかと私は思います。

今年も、保健だより等で家庭にお願いをすることが多い一年になりますが、〝自分の命は自分で守る〟ために、何に気を付けるのかを考えられる子どもを育てるサポートをしていきたいと思っています。

私にとっての学校

中津川市立苗木中学校
養護教諭　三尾 彩那

私にとって学校は、大好きな場所でした。大好きな友達に会える場所、そんな友達と一緒に過ごすことができる場所。そして、大好きな先生達に会える場所。私にとって学校は、大好きな人達に会える、安心できて楽しい場所でした。居心地の良い学校という場所を作っている教員に憧れ、私はこの職業を目指しました。

学校という場所をそう思えたのは、周りの友達に恵まれたからだけではなく、いつも目の前の子どものことを一番に考えてくれる先生達がおり、見守り、支えてくれていたからだと思います。

小学校一・二年生の時の担任の先生は子どもが喜ぶことをよく知っている先生でした。月一回はある生活科での調理実習。頻繁に出かけた町探検で集めた葉っぱを使ったプール遊び。いまだに鮮明に記憶に残っている楽しかった思い出です。筆ペンで書かれた定期的に発行される学級通信は両親も楽しみにしていました。また、叱る時はとても怖い顔をして、間違っていることは間違っているとはっきり教えてくれました。幼いながらにも、その先生が私達のことを大事にしてくれていることが伝わってきたのです。

小学校四年生から六年生までの担任の先生は、いつも元気で誰からも人気のある先生でした。決して人を傷つけることは許さない、叱る時は心の底から反省するまで黙って私達を見つめるそんな先生でした。そして、私達が「やってみたい！」と言ったことは、「いいね！」の一言でやらせてくれ、見守り、そして、できたあとには、「こんなにほめてくれるのか。」と思うくらいほめてくれました。学級活動の時間は、毎回楽しい係活動でした。新聞係は読みたくなる学級新聞を作成。生き物係は、金魚を飼いたいというみんなの願いを先生の協力で実現し、名前を付けてお世話。イベント係は月一回学級の仲が深まる誕生日会などのイベントを企画し開催。学級にいること自体がわくわくする教室でした。その先生は、卒業式の最後の学級活動で、一人ひとりに合った漢字を一人ずつに伝えプレゼントしてくれました。一人ひとりのことをよくみて、理解し、愛してなければできないことだと思います。

幼い頃からの愛情溢れる先生との出会いで、「学校は安心できて楽しい場所」と思うことができました。先生との思い出は多くありますが、今まで出会ったどの先生にも共通して言えることは、生き生きとしていて、目の前の子ども達のためを思って、言葉を伝え、行動し、見守ってくれているということです。

私の育った学校がある中津川市での教員生活が始まり五年目を迎えました。「まずはやってみればいい。」と言い、困っている時には新しい視点をくださる管理職の先生、いつも仕事のことだけではなく一人暮らしのことも気にかけてくれる先輩の先生。忙しい時期に険しい表情をしている私に「これ手伝うよ。」と助けてくれる同僚の先生。あたたかい先生達に出会うことができ、学校で働くことができていることが幸せです。

今は、私の目の前にいる「学校に行きたくない。」そんな想いをもつ子ども達にとって、学校が少しでも好きな場所になってくれるように、私にできることは何か毎日考えながら子ども達と接しています。学校が安心できる楽しい場所となるには、まずは、教員である私達が元気に生き生きと過ごすことが大切だと思っています。教員の中でも、養護教諭は、全校の子ども達のために先生方をサポートする立場だと何度も実感しています。先生方と一緒に、今、目の前にいる子ども達の心に寄り添い、「あなたのことを大切に思っている」という姿勢で関わり続けることで、大好きな先生がいる学校、そんな学校に行くことが楽しいと思える子ども達を増やしていきたいと思っています。

北方町立北方西小学校 PTA副会長　吉井 政樹

わが家の宝物

わが家の宝物は、家族との時間とたくさんの写真や子どもたちからの手紙です。

私たち夫婦には三人の娘と一匹のわんちゃんがいます。

娘たちが生まれた時からたくさん写真を撮り、一人ひとりの成長記録として写真を現像し部屋に飾ったりアルバムにしています。写真を見返すと当時の事を思い出し、自然と笑みが溢れます。

現在、長女・次女は高校を卒業し、就職・専門学校へとそれぞれの道へと歩んでいます。

毎年家族みんなで旅行をしたり、食事へ行ったり、もちろんリビングで家族団欒する事が当たり前のような年月を過ごしていましたが、娘たちの成長と共にみんな揃って過ごす時間が少なくなり少し寂しくも思います。

しかし、三女は姉たちとは十歳以上離れていてまだ小学生。一番のムードメーカーで、家族みんな揃っているかのように賑やかにしてくれて、とても幸せな気持ちにさせてくれます。

今ではみんなで一緒に過ごす時間は減ってきていますが、これから先もコミュニケーションを沢山とり、娘たちの成長を見守り続け暖かい家族であり続けたいと願っています。

リレーエッセイ 14

大野町立南小学校PTA
飯沼 英樹

PTAを経験して

私は長女が小学三年生になった年からPTA役員に参加しました。

まず思ったのはPTAが何をしているのか、役員の組織や活動などわからないことばかりで不安でしたが、前年度からの役員に詳しく教えてもらい、事務局である教頭先生にはアドバイスや資料作成など手伝っていただきました。ありがとうございました。

では大野南小学校の子どもたちと保護者、学校、地域の協力で成り立つPTA主催の取り組みや行事を紹介したいと思います。

まず一つ目は親子ふれあい活動です。これは親子で様々な講座を体験するもので、地区の区長会からは竹とんぼやペットボトルロケット作り、地域の方と店、企業からはフラワーアレンジメント、掛け軸、畳細工、漬け物作りなど普段授業では出来ない講座内容を親子で体験制作するものです。親子で協力しながら作り上げて、完成したものを大切に持ち帰ります。

二つ目は学習発表会とバザーです。公民館まつりに参加させていただく形で午前中の演目で各学年による学習発表、全校生徒で合唱をおこないます。バザーでは地域の方が豚汁、おにぎり、焼きそばなどを提供する中、PTAはフランクフルトやチキンナゲット、たこ焼き、飲み物を販売します。調理販売するため役員の皆さんで準備します。調理過程は大変ですが、家事のプロフェッショナルである女性役員の皆さんが手際よく動いてくださり時間通りに提供することが出来、子どもたちも大喜びでした。いずれも保護者、地域の皆さん、学校の協力なしでは出来ません。PTAは子どもたちが「楽しかった」「次もやりたい」「美味しかった」と思えるように行事や活動を提供することが大切だと思います。

しかしながら役員を引き受けると忙しくて大変そうだとの声が強いのが現状です。PTAの会議は十九時過ぎが多く家事の忙しい時間、子どもと接する時間が少なくなります。役員の負担軽減に対する取り組みで、PTAの会議は行事や授業参観日前後の時間でおこなう、急ぎではないことは書面で決議、報告するなどして参加しやすい環境をつくりました。その取り組みも含めて私一人では成し遂げることはできません。一緒に活動した役員の皆さんや保護者のご協力、校長先生、教頭先生を含めた教職員のご理解、地域の皆さんのご協力があったからこそできました。ありがとうございました。

また、小学校の役員以外に郡、県PTA連合会にも参加させていただき貴重な経験ができました。今はコロナ禍で思うように行事や活動が出来ないのが残念です。今後は、厳しい環境の中頑張っている子どもたち、役員の皆さん、教職員を陰ながら応援していきたいと思います。

次回は… 岐阜市立陽南中学校 PTA　辻 智秀さん

子育て半生記

私の大切なもの

高山市立東小学校 PTA会長　松尾 寛之

あなたにとってたいせつなものはなんですか？

わたしにとってたいせつなものは「家族の笑顔」です。

私は、自然豊かな古都・飛騨高山で生まれ育ちました。高山では国の重要無形民俗文化財で二〇一六年には「山・鉾・屋台行事」の一つとして国連文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録された高山祭が毎年、春の山王祭・秋の八幡祭の二回開催されています。今年は新型コロナウイルス感染症対策として豪華な屋台が並ぶ（屋台曳き揃え）と（からくり奉納）（夜祭）は中止し十二台の屋台はそれぞれを収めている蔵で公開、行列は規模を縮小して行われます。桜満開の屋台曳き揃えを見ることが出来ないのが残念ですが、来年は活気ある祭が沢山の人に見に来ていただいて開催されることを願っています。

市内郊外にある家で育った私は小さなころ、夏は蛙やトンボやカブトムシを捕まえて、冬はミニスキーやソリなどの雪遊びをして過ごしました。その頃の両親はとても仕事が忙しく、運動会などの学校行事では両親と一緒にお弁当を食べることも難しい環境でした。父母のことは仕方がないとわかっていましたが他の家族がお弁当を食べる姿をみて酷くうらやましく思った記憶があります。

地元の高校を卒業して家業である大工を継いだ私は結婚し、女の子と男の子の親となりました。ちょうど仕事も順調で少し面白さをおぼえたこともあり、仕事に励みました。育児は妻に任せきりとなり、長男の出産にも立ち会わず働いていたくらいでした。収入を得ることで、何不自由なく暮らせることが大切なことだと考えていたからです。

そんな考えを持った私でしたが、子どもたちがお世話になっている保育園の保護者会役員を引き受ける事になりました。軽い気持ちで引き受けた役ではありましたが、それは私の考えを変えるきっかけを作ってくれました。真摯に子ども達と向き合う保育士さんの姿や他のお父さんお母さんの愛情をもって接する姿、子ども達の笑顔を間近で見て今までとは違う気持ちが芽生えました。たくさんの収入による何不自由ないくらしも大切だが、家族の笑顔も同じぐらい大切だと気づかされました。それからは、家族とよりたくさんの時間を共有し子どもの成長を近くで見たいと考えるようになりました。

夕ご飯は、できるだけ一緒に食べるようにしています。皆で食卓を囲んでコミュニケーションを図って、お互いの考え、今の状況、予定などを知ることが出来ますし何よりも楽しくそんな雰囲気で飲むお酒はとても美味しいです。私の両親も多忙な仕事のなかでしたが、コミュニケーションをとってくれていたように思います。何となく仕事への理解もありました。そんなに寂しい思いはなかったように思えます。

家族での共通の趣味もたくさん増え、その一つに私が読み集めていた「ワンピース」という漫画があります。妻・子ども達も興味をもってくれて一緒に映画やグッズショップ・テーマパークなどへ出掛け楽しい時間を共有することが出来ました。

友人からの誘いもあり、昨年度よりPTA本部役員を務めさせてもらうこととなりました。先生方や保護者の皆さま・地域の方々との活動を通じて、また新しい刺激を受けました。私の住んでいる地域では、子ども・学校・保護者・地域の方々が手を取り合って大きな輪を作り、子育ての環境がつくられています。そんな環境を誇らしげに思い、保育園の役員の経験を活かしながら、地域の子ども達の笑顔も大切にしていきたいと思っています。

Illustration&Quiz
イラスト&クイズ

PN．木村 ようへい（各務原市）

PN．プーさん（下呂市）

question 1

出題・土屋 美賀（関市）

〈答えは41ページ〉

海にあって山になく、紙袋にあって折り紙にないのは？

楽しい読み聞かせ 13

親も子も、豊かな心を育む『読み聞かせ』

岐阜市立常磐小学校ＰＴＡ

自然豊かな戸石川や椿洞の山が近くにあり、歴史を伝える多くの古墳もあります。そうした恵まれた環境の中で、元気で明るく、のびのびと育つ常磐小学校の子どもたち。常に、地域の方への感謝と人を思いやる気持ちを忘れずに、やさしく頼もしい学校生活を送っています。

保護者の方にお願いして

読み聞かせボランティアの募集は、年度当初に全学年で保護者の方への手紙で行っています。それ以外でも、ボランティアの方々の口コミによるところが大きいです。

今は全員が母親ですが、父親の参加も大歓迎です。令和二年度は、十五名の方に登録していただきました。

本はどうやって選んでいるの？

最初は、自宅にある本で、我が子が喜んだ本を読むことが多いです。低学年では楽しいもの、絵に引き付けられるものを選び、学年が進むにつれて、長い文章でストーリー性のあるものを中心に選ぶようにしています。

さらに続けていくうちに、どんな本でも喜んでくれることに気が付きました。大型絵本や紙芝居を読んでみたいときは、メディアコスモス（市立中央図書館）や県立図書館に出向くことがあります。図書館に行くと、ついつい自分自身も本を借りたくなってしまうことがあります。

読み聞かせで心掛けていることはありますか？

トータルの時間は決まっているので、家で時間を計って練習をしていきます。「本選び→練習→本番→反省」という一連の流れの中で、我が子にも本を選んだり練習したりする際に感想を聞くことで、親子にとってたいへん貴重な時間になっています。

「上手に読もう！」ではなく、「伝えたい！」という思いを届けたいと思っています。子ども達のリアクションによっては、その反応にも応えられるように心掛けています（初めのうちは、そんな余裕はありませんでしたが）。一方的な読み聞かせではなく、子どもと一緒に楽しめる時間にしていきたいです。

また、コロナ禍で、マスク着用の読み聞かせでした。声が後ろのほうまでしっかり届くのか、難しさも感じました。マスクで授業されている先生方はすごいと思いました。

読み聞かせのやりがいは何ですか？

低学年で読み聞かせをしていた時には、面白いと大声で笑ったり、気になる場面になると、身を乗り出してみたりと、にぎやかな反応があちらこちらから返ってきました。学年が進むにつれて、周りの様子も意識して楽しむ姿が増えてくるのでその変化を面白いと感じていました。

本屋さんなどで「幼児向け」「低学年向け」などと絵本が分類されていますが、幼児向けの絵本を六年生で読んだ時、子ども達の表情がフッと柔らかくなるのを感じました。同じ本でも子ども達は幼いころとはまた違った思いで聴けて、年齢に関係なく子ども達と触れ合うことにやりがいを感じています。中には、高校生になっても挨拶してくれる子もいます。

最後に

授業参観やＰＴＡ活動以外の場での学級の雰囲気を感じることもできました。朝の短い時間ですが、読み聞かせを通して、親も子も豊かな心を育んでいます。

親の背中 ⑧

親子は鏡

池田町立池田小学校
ＰＴＡ会長　高田 和良

我が家は四人家族で、上の子（女の子小五）と下の子（男の子小二）が元気よく勉強したり、遊んだりしています。普段は仕事の都合で子どもと休みの日が違うので、仕事に行っている間に子どもたちが何をしているのか、どんな事を思ったり考えたりしているのかがあまり見えませんでした。そんなある日のこと、少し考えさせられる出来事がありました。どの家庭でも日常の光景かとは思いますが、子どもたちだけで遊んでいた時の事ですが、二人で楽しく遊んでいたのに突然喧嘩が始まり、少し時間が経つと仲直りしたのか、また楽しく遊んでいました。何気ない光景ですが親としてはなぜ喧嘩が始まったのか、どうして仲直りできたのかと疑問に思いました。

子どもたちが喧嘩を始めると、親が仲裁に入ることが多いと思うのですが、少し前に何かの記事で読んだ記憶を思い出しました。その記事の中に『親は子どもの裁判官や警察みたいになってはいけない』と助言が書いてありました。どちらか一方を悪いとか決めつけたり、もう喧嘩になるくらいなら今の遊びは止めなさいと遊びをやめさせたりしても、子どもにとっては親の一方通行の考えを押し付けられた気持ちになると書いてありました。確かに一理あると思い、親だけの考えや感情で子どもに話をするのは違うのかなと思うようになり、今は少し見守るように気を付けています。親が解決策を全部出したり子ども同士の間に入り話を進めていって仲直りさせたりしていくよりも、子どもたちが感じたり考えたりした事をお互いに話をしてみて、子どもたちの考える解決策が出た方が、少しでも相手の感情や経験して思ったことから学ぶ機会になるのではないかと考えるようになりました。子ども同士でのコミュニケーションを育む上でも、喧嘩や仲直りさえも経験として学んでほしいと思いますし、他の事も色々と経験をさせてあげたいです。

子どもが小さい頃は親が主導になったりしますが、いずれ子どもが自分で考え、行動していくようになれば少しずつ親の主導から子ども同士が考えて話し合いになったり、親も子どもの話に共感してお互いに話をしていくようになっていくのかなと思うようになりました。親としては子どもを育てているように思っていますが、実は自分が子どもに育てられていたり、子どもの思いや気持ちから自分の子どもの時に経験してきた事や親に言われた事を思ってみたりします。当然の事ですが、子どもは親になり経験してみないと、親がいくら子どもに説明してもすべては理解してもらえないし、親も自分の経験してきた以外の事は、子どもに教えたり伝えたりする事が出来ませんが、親として子どもの成長を見るというのは、自分の親の気持ちを知る事と同じなのかなと思います。

この先、子どもたちが親になった時に親の気持ちを少しでも知ってくれる日が来ると思いながら、少しずつゆっくりですが子どもたちを見守り続けたいと思います。

スマホ時代

瑞浪市立瑞浪南中学校
ＰＴＡ会長　伊藤 孝之

現代ではスマートフォンが普及し、高校生、中学生のほとんどがスマートフォンを持っている。それだけでなく、スマートフォンを持ち歩く小学生の姿も見られる。

パソコンがネットの中心だった時代は、家の中だからまだ監視がしやすかった。長時間使っていたら、注意もできる。ところがスマホが登場し、「いつでもどこでも」ネット環境につながるようになって、だいぶ事情が変わったといえる。便利さが加速する一方で、子どもが何をどう利用しているのか、親から見えにくい環境になってしまった。

子どもがスマホを持つ時の懸念事項は、親子間のコミュニケーションに影響をおよぼす事だと思います。子どもは、親の「言うこと」は全然聞かないけれど、親の「やること」はしっかりと真似をします。子どもは、言葉で理解するのではなく、見て経験して感じて学んでいきます。親が長時間スマホを使用したり、食事時もテレビをつけっぱなしで家族の会話がないなど、そんな環境では子どもたちも人を大切にするという事を学びません。

デジタルネイティブ世代の子どもたちは、パソコンやスマホ上での会話や、ＳＮＳ上での会話でコミュニケーションをとるため、対人での繋がりや会話が苦手という問題点があります。いざ実際の対人での会話やコミュニケーションとなると、言葉に詰まったり相手に意図が伝わらないことがあります。人の表情、人の言葉を感じてコミュニケーションを図ることが、大切であること、自分の言葉は相手の顔をみて話す、感謝の気持ちは、相手に直接言葉で伝えるなど、人と人が接する機会をより多く作ることが「スマホ時代の子どもたち」には必要ではないかと思います。私たち親もスマホやテレビから離れ、今日あった出来事を子どもと話したり、一緒に本を読んだり、デジタルから離れて生活する家族の時間を大切にしたいです。

子どもたちのスマホやネットの使い方が危険と考える大人は多いですが、私たち親は、どうでしょうか。コミュニケーション、マナーなど、スマホ時代だからこそ大人の姿勢が問われています。スマホ・ネットスキルの基本はモラル（常識）です。スマホ時代を生きるわが子と共に一緒に考え、親も学んでいきたいです。子どもから安心して相談、話しができる。安らげる空間が、家族の時間と感じられる親の背中でありたいです。

どうぶつたちへのレクイエム

著者：児玉 小枝
出版社：日本出版社

各務原市立蘇原第一小学校PTA会長　渡邉 晴代

この本は、動物収容施設で数日後に、あるいは数時間後に生命を絶たれる動物たちの様子を捉えた写真が中心となっているものです。

著者の児玉さんが、会社近くの線路脇に捨てられていた一つのゴミ袋を見つけました。そのゴミ袋には、「犬(死)」と書かれた紙が貼ってあり、中には、赤い首輪をしたままの白い犬が入っていたそうです。どんな事情でこのように捨てられていたかはわかりませんが、児玉さんは、その日を境に自分自身に出来ることについて考え始めるきっかけとなったのです。

その後、動物収容施設を訪れ、数日後、数時間後に生命を絶たれる動物たちに出会いました。

その施設内には、無責任に捨てられた子、屋外で放浪中に捕獲された子、飼い主によって持ち込まれた子など、多くの犬や猫たちがその時をじっと待っていたのです。

この本を読むきっかけとなったのは、近年頻繁に目にする機会が増えた、テレビ、SNS等を通して、動物虐待や多頭飼育崩壊、殺処分される犬猫の数の多さなど、ペットブームの裏では、こんなにも残酷なことが起きていることを知ることになったからです。

本の中にある、飼い主の身勝手な理由から持ち込まれ、収容された子たちをいくつか紹介したいと思います。

まず、十歳を超えた老犬。この子の最期を看取るのがいやだから。もう一頭の老犬は、年を取って手がかかるから。動物たちだって、いずれ年を取り、いつかは亡くなってしまいます。

次に、大きくなりすぎて手に負えない犬。流行していた犬種で、元々大型犬とわかっていたはずなのに。

そして、子犬を身ごもったからと捨てられた母犬。正しい知識を持っていれば、このようなことは起こらないはずです。母犬はその後、小さな生命とともにその時を迎えたのです。

どんな理由であれ、このようなことは絶対にあってはなりません。私たち人間の身勝手な行動により、多くの動物たちの命が犠牲になっていることを、もっと知ってほしいです。

著者の児玉さんが、「動物を飼い始めたら、どんなことがあろうとも、終生、家族の一員として愛情と責任をもって共に暮らしてください。またその覚悟がないのなら飼うことを諦めるのも一つの愛情です」と訴えかけています。私も同感です。

動物を飼うには、正しい知識、覚悟が必要です。これからペットを飼いたいと思っている子どもたちはたくさんいると思います。ぜひ、この本を読んで、しっかり考えて、新しい家族の一員として迎え入れてほしいです。

「人魚の眠る家」を読んで

山県市立伊自良中学校PTA会長　佐村 友里江

私は、東野圭吾さんの著書が大好きでよく読む。その中でも、特に衝撃を受け深く考えさせられたのがこの本だ。

ある日、突然小学校入学前の幼い娘がプールで溺れ脳死状態になり、いずれ心肺停止してしまうという現実が訪れた。医師からの、臓器提供する意思があるかとの問いに、夫婦は、一度は承諾したものの、娘の手を握った時にほんのかすかに娘の手が動いたように感じた事をきっかけに、「娘は死んでいない。生きている。」と確信し、臓器提供を拒否する事にした。この小説で一貫して問われている事は何をもって死とするかという事だ。

「脳死は人の死なのか。娘は生きている。」回復の見込みがない中、生きていると信じて母親は献身的に介護する。特に考えさせられるシーンは、そんな母親に対して、家族が否定的な言葉をあびせた場面だ。

「もう死んでいるんだ。受け入れないといけない。」

それに対して、母親は自ら警察を呼び、家族と警察に向かって、「娘に包丁を突き刺したら、私は罪に問われるのでしょうか。」と、問うシーンだ。意識のない娘に向かって、

「もう死んでいるのに。」

と言う周りに対し、

「娘に包丁を突き刺し殺人罪に問われたら喜んで服役する。娘が生きていると証明されたという事だから。」

と母親は絶叫する。このシーンが私は特に印象に残っている。私もどちらかというと、家族側の意見だった。母親の気持ちが分からない訳ではなく、この小説の母親の行動は異常だと思っていた。私にとってこのシーンは衝撃的だった。異常だと思っていた母親の苦悩と深い愛情、娘と母との間の絆を痛感し、涙が溢れた。

医者や近所の人、夫や親戚、誰が何と言おうと、母親が、「娘は生きている。」と確信を持っているのなら娘は生きているのだと思った。脳死は人の死なのか、答えは簡単に出ない。臓器提供、臓器移植についても、考えさせられる小説だった。

実際にその立場になったら、家族に負担をかけてしまうのが心苦しいので、臓器提供してもらいたいと私自身は思うのだが、決断する家族の身になって考えると「はい。そうですか。」とは、なかなかいかないだろう。どちらを選んでも残酷な選択になってしまうかもしれない。でも、現実にそういう岐路に立たされた方がいて、そのおかげで幸せになった方もいるのだろう。他人事ではなく、誰にでも起こりうる事として真剣に考えるべき問題だと思った。「もし、自分が脳死状態になったらどうするか」家族に聞いてみた。

「その時になってみないとわからない。」と言った。正直な答えだが、その時になったらでは遅いと私は思う。

このテーマに限らず、常日頃から、多方面のあらゆる情報、あらゆる出来事に着目し、自分ならどうするか、世の中をよくする為にどうあらねばならないかと、自問自答していくところに、より良い自分・社会の実現につながっていくのではないかと私は思う。

Illustration&Quiz
イラスト&クイズ

PN. ゲンキ（岐阜市）

PN. りこ（高山市）

question❷

出題・千先 寧々（大垣市）
〈答えは41ページ〉

家族の中で、お父さんが嫌いなフルーツは？

子の思い

虫ランド

岐阜市立市橋小学校
二年　日比野 向

今日、いえのにわで虫とりをしました。

さいしょは、かを見つけて、足でふんでたいじしました。そのあと、なかなか虫が見つけられませんでした。おかあさんに、

「土をほったり、石をどけたりしてみたら。」

と言われたので、やってみました。そうしたら、ダンゴムシ、ミミズ、ハサミムシ、クモが見つかったけれど、ほとんどこわくてつかまえられませんでした。

ミミズはあなをほったら出てきました。でも、ダンゴムシもいっしょに出てきたので、つかまえようとしたら、ミミズがはん分に切れてしまいました。でも、ミミズはそのままどこかへ行ったので、すごいなぁと思いました。

ダンゴムシはすきなので、たくさんつかまえられました。色がこいおとなと、色がうすい赤ちゃんのダンゴムシがいました。三びきどうじに石にのせました。赤ちゃんは足がよわそうだったので、石をうらがえしにして気をつけました。うごいているところが、かわいかったです。

つぎは、めずらしいものを見つけたいです。

六年生でがんばること

白川町立白川小学校
六年　佐古 薫音

五年生の三学期、私たちは保育園児との交流会をしました。一緒に一年生の授業の様子を見たり、私たちが考えた遊びをしたりしました。保育園の子は、私たちが話しかけても恥ずかしがらずに、一生懸命に大きな声で「はい。」と言っていてすごいと思いました。また、一年生からもらったプレゼントで一緒に遊んだことも楽しかったです。

私は、この保育園交流で学んだことがあります。それは、小さい子に優しく教えてあげると、みんな素直に話を聞いてくれるということです。保育園交流のおかげでこのようなことがわかってよかったです。

この経験から、六年生でがんばりたいことは、下級生には優しく教えてあげたり、同級生とは優しく教え合ったりして、全校が仲良く過ごせる学校にしたいということです。六年生の仲間とこれをがんばります。

身近にある大切なもの

恵那市立恵那東中学校
三年　加藤 舞

皆さんにとって「大切なもの」とは何ですか。コレクションや思いを寄せている人、お金や命…人それぞれ曖昧だとしても中心にあるものがあると思います。私の中心にあるもの。それは人との繋がりです。私は小学六年生の時に母を病で亡くし、父子家庭です。普通とは少し違う家庭ですが、家族で協力し合っています。学校でも進んで発言したり、仲間と会話をしたりすることで繋がりを広げています。でも、小学生の時の私は、今とは正反対でした。その頃の私は、「考えが間違っていたらどうしよう」「冷やかされたら嫌だな」と、発言や交流が苦手で、授業ではほとんど挙手ができず、引っ込み思案な性格でした。けれど、私の母はいつでも底抜けに明るい人でした。そんな母から「舞…。お母さん、癌になっちゃった。」普段の何気ない会話をしていたら、いきなりそう言われました。それを聞いた時、私は何も考える事ができず、咄嗟に「そっか！頑張ってね」と無責任な応援をしました。その後母は、他県の病院に入院することになり、塾がある日以外は、叔父にお見舞いに連れて行ってもらっていました。

母は様子を見に行くにつれ、どんどんやつれていき、底抜けの明るさも失われつつありました。その時に初めて「あっ、お母さんがやばい」と感じ、その日から毎晩のように泣きました。ある日、母のもとを訪れると、母は眠っていました。もう少し様子を見て帰ろうと思っていると、母が「お買い上げありがとうございます。また、お越しくださいませ。」と寝言を言いました。母は眠っていても、仕事をしていたのです。その時私は、「大切にされているな」と改めて思いました。そして、これまでの感謝を伝えようと決心しましたが、母の容体は急激に悪くなり、私の思いを伝える間もなく帰らぬ人となったのです。その後、姉から「お母さんはね、余命宣告されていたの、でもその宣告より2週間も長生きしたんだって」と聞かされました。私はその瞬間「これほどまでに私たちのことを想って生きようとし、私たちを愛してくれる人がいたのか」と涙が止まりませんでした。母の葬儀の時は、参列した人たち皆が涙を浮かべながら母を送ってくれていました。母は生前、たくさんの人と繋がり、その人たちに笑顔を与えていました。私もいろいろな人と繋がり、母のようにあたたかく、きれいな道を歩いていきたいと思っています。

あなたの「大切なもの」は何ですか。

親の願い

スタートライン

下呂市立中原小学校
PTA　進藤 亙

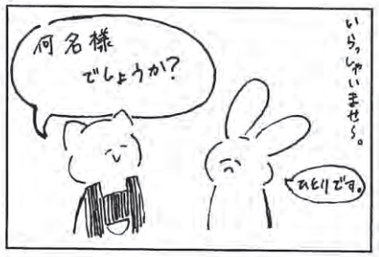
息子の行動に違和感を持ち始めたのがちょうど二歳半を過ぎる頃でした。言葉を発する時期は多少のずれは気になりませんでしたが、部屋から出るのを極端に嫌がるようになり、トイレは簡易トイレにて、お風呂も嫌がり週に一度入れればいいほどで部屋にて全身を拭く、当然食事も食卓に向かうことなく部屋で摂るという引きこもりの状態になってしまいました。

彼には保育園生活において年長の運動会までビデオや写真の記録がありません。保育園では、団体行動が苦手というよりは出来ないので、勝手に遊戯室の隅や砂場にて、みんなが運動会を一生懸命やっている傍らで、こちらも一生懸命一人遊びに没頭する。結果、当然ビデオや写真を撮ることもできずというか撮る気も無くなってしまい、ただただ恥ずかしさでその場から逃げ出したいやら、悲しいやら、悔しいやら、『なんで息子だけこんな風になってしまったのだろう?』『息子の育て方をどこかで間違えたんやろうか?』

運動会のあった夜、私は家内と、

県立大垣桜高校
まんが研究部

ぼっち



逆さ言葉

ぞうくんぱんくうぞ

（象くんパン食うぞ）

出題・玉腰 和都子（郡上市）

息子との今後のことについて色々話し合いました。認めたくはないけど、彼はなにかしらの精神的障がいをもっているかもしれない。一番認めたくない事実、でも受け入れなければならない事実を受け止める時がきたのだと…。

後日私は、息子と専門医のカウンセリングを受けることにしました。結果は【発達障害・自閉症】当時五歳前の息子の精神年齢は一歳半相当だそうでした。診断後、家内はかなりのショックで呆然としていましたが、私はというと、不思議と「やはりそうか、そうと判れば怖いものなどないわ」くらいの覚悟と決意にあふれていました。

この先私や家内や家族がいなくなっても、衣食住身の周りのことが一人の力でできて生きていけるようにしてあげることが何より大事な課題だと。勉強もスポーツもできなくていい、普通の子たちがしていることなど二の次でいい。とにかく今は息子が一日でも早く独り立ちができるようがむしゃらにいろんなことを試してみよう、先の見えない不安を嘆く前にその日その日を全力で息子と向き合おう、そうすれば必ず光は見えてくるはずだから…。それから、家族みんなで息子との奮闘記が始まりました。

年長になってから、先生方や周りの子どもたちの協力もあり、少しずつみんなと一緒に行動が出来るようになりました。発表会ではちゃんと役をこなし、歌も歌えました。私はビデオを回しながら憚らず感動で家内よりも大泣きしてしまいました（笑）

その後は支援学校に入学。先生方の献身的な教育や本人の努力もあって中原小学校へ編入し、一度も嫌がることなく小学校生活をやり抜くことができました。

最後に、子育てとは、カッコ悪くてもいい、形なんてどうでもいい、ただただ前を向いて、一緒になって一歩ずつ進んでゆくことだと思います。

支援学校中学部に進学する息子と一緒に、いま私も新たに次の「独り歩きのスタートライン」をきって歩き出しました。

親の願いと子の気持ち

各務原市立鵜沼中学校
PTA会長　足立 聡

私には十五歳の娘と十四歳の娘がいます。今回「親の願い」というテーマで執筆するに当たり、今まで何を願って二人の娘を子育てしてきたのか、改めて考える良い機会になりました。「健やかに成長して欲しい」「幸せになって欲しい」といった、漠然とした願いは常に持っていました。しかし、それだけではなく娘たちの成長に合わせ、その時、その瞬間に幾つもの願いを持って育ててきたことを思い出します。

赤ちゃんの時には、「早く喋れるようにならないか、歩けるようにならないか」と願い、幼少期には「友達をたくさん作って欲しい、勉強を頑張って欲しい」と願い、中学生になると「良い成績を取って目指している高校に進学して欲しい」と娘たちの成長と共に、願いも変わっていきました。

ただ、私の願いが変わったように娘たちも大きく成長するにつれ、気持ちに変化が生まれてきました。私が願っていることに対し、時には不満を持つようになったのです。

私と衝突したきっかけになったのが、長女は進学時に、次女は中学校でどちらも部活に所属しなかったことでした。私自身、中学校、高校と部活に力を入れ、多くのことを経験し、学んだので娘たちにも部活に所属して欲しいと願っていました。「部活には所属しろ！」と強く言いたいところでしたが、二人の気持ちを聞くことにしました。長女は「行きたい大学があるから、今は勉強に専念したい。」と言い、次女は「ダンスを続け、いずれはそれを活かした職業に就きたい。」と言いました。そして二人とも「中途半端な気持ちで部活をするほうが失礼だ。」と口を揃え言いました。その後、二人の生活を見守っていますが「自分が目指す夢」に向けて、毎日努力している姿を目にします。自分で決めたことや自分の言葉に責任を持ち、日々頑張っている姿を見てとてもうれしく思いました。

不満を言うことに対して「思春期、反抗期に持つ当たり前の感情」と片付けてしまいそうになりますが、娘たちと向き合って話をすると、私が想像していた以上に自分の考えを持ち、「目指すべき自分」を持っていることに気づきました。

今後は、親としての「私の願い」が、娘たちに対しての押しつけや重荷にならないようしっかりと声に耳を傾け、娘たちが「なりたい自分」を目指し努力できるよう支援していくことが大事だと感じました。

教育の窓

「よさを生かして」

大垣市立川並小学校
教頭　伊藤 由美

二〇二〇年度、小学校の学習指導要領が改訂され、学校のＩＣＴ環境の整備やＩＣＴを活用した学習活動の充実を図るＧＩＧＡスクール構想が打ち出されました。本市でも児童生徒に一人に一台タブレットが貸し出され、子どもたちの学びの個別最適化を図り、情報活用能力をはじめとする諸能力を高めていこうとしています。

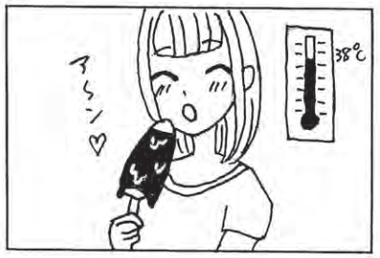
これは、これまでにない大きな変革で、教師も様々なことにチャレンジしていくことになりました。本校の職員もＩＣＴを活用した授業改善を図ろうと研修はもちろん、それぞれの教師が有効な活用方法を探り、情報交流するなどして意欲的に取り組んでいます。子どもたちは、ＩＣＴを使った授業を楽しみにしています。

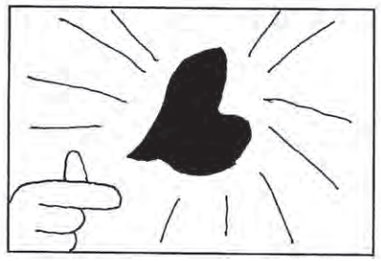
学校では、次のように活用しています。例えば、言葉の説明では十分理解することが難しい活動も、実際に動画や写真などをその場で撮って大型モニタに示すことで、学習の進め方を理解しやすいようにしています。高学年では、児童がタブレットを使って仲間にアンケートを取り、その結果をもとに意見をまとめたり、一人ひとりの考えを画面上で比較し、考えを深めたりしています。教科の学習以外の場でも有効です。全校が集まれない状況において、リモートでつなげて全校朝会に参加したり、各家庭にタブレットを持ち帰って学校とつなげたりすることも一年生であっても一人でできるようになりました。このように、ＩＣＴは正しく使い方を工夫することで、とても便利で学びが広がる素晴らしいものだと実感しています。

一方、危惧していることもあります。情報モラルを身に付けること

県立大垣桜高校
まんが研究部

アイス





逆さ言葉

このこどもどこのこ
（この子どもどこの子）

出題・市村 優成（関市）

とはもちろんですが、心身の成長が著しいこの大切な時期に人と人とが触れ合ったり、共同で取り組んだり、実際に体を使って何かをやり切ったりする体験は、やはりとても大切なことです。ＩＣＴの良さを取り入れつつも、極端にＩＣＴに偏ることのないようにしたいものです。

どの学校でも学校生活に関するアンケートを取っていると思いますが、学校が楽しいと答えている児童にその理由を問うと、最も多いのは「友達と会えること。一緒に勉強できること。」と書いてきます。これは子どもたちが仲間と触れ合ったり、一緒に活動したりすることで楽しさを味わい、心が動き、成長していくことを示していると考えます。

今後の社会においてＩＣＴを活用することはマストアイテムになると思われます。その良さを生かしつつ、あえてアナログ的な体験的な活動を取り入れていくこと、実際に様々な人と触れ合うことで、時代に即した力を身に付けつつ、心身のバランスの取れた豊かな人間性が育まれると感じています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ひとりの親として、ひとりの教職員として。

多治見市立多治見中学校
教諭　藤澤 克彦

我が家の子どもたちを見て思うことです。

『漢字を覚えるのには時間がかかるのに、ゲームの武器の作り方は一回で覚える。』（小学生）

『「歯みがきするよ。」と言っても動かないが、「おでかけするよ。」はすぐ動く。』（年少）

このような子どもたちの動きは、きっとどのご家庭でもあるのではないかと思います。私も教職員であると同時に一人の保護者でもあります。子どもの様子を見ている中で、「ちゃっちゃっとやればすぐ終わるのに、何で動かないのだろう。」「学校でちゃんとやっているだろうか。」と日々思いながら生活をしています。「学校や園で子どもは、きっと少なからずストレスを抱えて生活をしているだろう…。家庭にいるときは、少しくらい目をつぶって…」と思うものの、目の前でだらだらと過ごす我が子を見ると、「（怒）!!」となることもしばしばあるものです。

そんな中、私はひとりの親として、ひとりの教職員として、「子育て」ということを考えたとき、「子どもがいろいろなことをできるようにするために、どんな支援・援助をしたらよいか。」が大切だと考えています。例えば、子どもが「悩んでいる」「困っている」「できないことがある」となったとき、大人がそこへ介入して、子どもに代わってやれば、当然解決もしやすくなります。そうすることで、子どもが目の前でいつまでも「だってー、だってー…」と言うことはないですし、それを見ることで大人が「イラッ！」とすることもなくなります。子どもにとっても、大人にとっても「ｗｉｎ-ｗｉｎ」になるので、そちらの方が良いようにも見えます。しかし、このように子どもができないことを親が手を出してやってしまっては、いずれ「何もできない子ども」になるでしょう。大人が子どもに代わるのではなく、「どうしたら子どもが解決できるようになるのか」「どうしたら子どもが解決できる力をつけられるようになるのか」を大人が考え、試行錯誤を繰り返していくことこそが大切なのです。

今のご時世、今の大人が子どものころに経験していない体験を、今の子どもたちはしています。さらに、子どもたちが社会に出た頃には、きっと今では考えられないような社会になり、予想すらしない状況に直面するかもしれません。私たち親や教職員が、今、子どもたちにすべきことは、「子どもが困難に直面したとき、それを乗り越えられることができる力をつけていくこと」ではないでしょうか。そのために、私たち大人がやるべきことは、手を出すことではありません。いろいろな助言、支援や援助をすることで、子どもがこれからの社会を生き抜く力を身に付けることなのです。

子の思い　親の願い　教育の窓

野村家の巻 106

わが家の約束

養老町立広幡小学校PTA　野村 美香

「いってきます。今日もがんばろうね。」
「うん。がんばろうね。いってらっしゃい。」
朝から、笑顔と共に元気な声が響き合います。そんな三人の子どもたちの後ろ姿を見届ける時間を大切にしています。

我が家の約束、次に紹介する二つのことは、子どもたちが幼い頃から大切にしてきたことであり、今では我が家の習慣になっています。

一、早寝・早起き・朝ごはん

長男が野球をしていることもあり、週末も家族みんな早起きをし、家族そろっておいしく朝ごはんを食べます。生活のリズムを崩さないことを心がけています。

二、助け合いと感謝の気持ち

家族一人ひとり、自分でできることをやり、その行動に対して、「ありがとう。」の言葉で感謝の気持ちを伝え合っています。

これからも、笑顔と家族そろっての朝ごはん、そして感謝の気持ちを大切に、仲良く生活していきたいと思います。

話そう！語ろう！わが家の約束

辻家の巻 107

美濃市立昭和中学校PTA　辻 理恵子

我が家のルール

我が家にはスマホやタブレット、ゲームを使用するにあたってのルールは特に設けていませんでした。そんな中、市連Ｐからコロナ禍の中でいろいろな問題が起きており、ネットの利用の仕方について考える機会をいただきました。我が家で今すぐに問題があるわけではありませんでしたが、家族で話し合い、

1．タブレット、ゲームをする時はみんなが居るリビングで使用すること

2．やるべきことをやってから使用すること

3．自分でよいこと、悪いことをよく考えて使用すること

などを約束としました。

子どもの成長とともに、これから親として少し離れたところから見守る必要があると思っています。そして折にふれて、これからも家族で話し合って使い方を見直していくべきだと思っています。正しく使えば便利な物です。間違った使い方をしないよう、家族みんなで考えていきたいです。

お試しクッキング

チャンプルー

岐阜県学校栄養士会

学校給食でも大人気の『チャンプルー』は、沖縄の方言で「ごちゃまぜ」という意味で、豆腐といろいろな食材を炒めた料理です。豚肉が使われているので、疲労回復に効果のあるビタミンB_1を摂ることができます。豚肉を炒める時のしょうがと最後に加えるごま油・花かつおの風味が食欲をそそり、暑さで食欲がない時でも野菜や豆腐をたくさん食べることができます。

また、夏が旬のゴーヤを使って「ゴーヤチャンプルー」、そうめんを使って「ソーメンチャンプルー」など、アレンジすることもできます。夏の暑さに負けないバランスのよい食事作りの1品にいかがでしょうか。

作り方

❶ にんじんは短冊切り、きくらげはせん切りにし、しょうがはみじん切りにするかすりおろし、にらは2〜3cmに切る。

❷ 豆腐はキッチンペーパーでくるみ、耐熱皿に載せて電子レンジ500Wで3分かけてよく水分を切り、一口大に切る。

❸ フライパンにサラダ油、❶のしょうがを入れて火にかけ、香りがたったら豚肉を入れ、Ⓐを加えて炒める。

❹ 豚肉の色が変わったらにんじんを加え、しんなりするまで炒め、きくらげ、もやし、❷の豆腐、にらの順に炒め、しょうゆ、本みりんを加え、塩・こしょうで味を調える。

❺ 鍋肌からごま油を回しかけ、花かつおを入れて混ぜ合わる。

材料

（材料4人分）

サラダ油	小さじ1/2
しょうが	2g
豚肉（薄切り）	40g
Ⓐ しょうゆ	小さじ1弱
Ⓐ 調味酒	小さじ1弱
にんじん	50g
きくらげ	4g
もやし	140g
木綿豆腐	1丁
にら	60g
しょうゆ	大さじ1
本みりん	小さじ1
塩	少々
こしょう	少々
ごま油	小さじ1/2
花かつお	5g

●栄養価（1人あたり）

エネルギー	130kcal
たんぱく質	10.7g
脂質	6.9g
カルシウム	104mg
鉄	1.8mg
亜鉛	1.0mg
ビタミンA	131 μgRE
ビタミンB_1	0.18mg
ビタミンB_2	0.12mg
ビタミンC	7mg
食物繊維	2.2g
食塩相当量	1.1g

7月号の 親子で はてな

Q1 7月3日はある食べ物の日に制定されています。次のうちどれでしょう。

ア　かき氷

イ　ソフトクリーム

ウ　ゼリー

Q2 「飲む点滴（てんてき）」とも呼ばれるほど栄養豊富な飲み物は、次のうちどれでしょう。

ア　ビール

イ　麦茶

ウ　甘酒

応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送りください。
（1人1枚・当日消印有効）
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- ●7月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所 学校・学年・氏名 保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

3月号クイズ答え

Q1　ア　　Q2　イ

3月号のクイズ当選者

赤堀はるき（岐阜市）　鈴木　花歩（郡上市）
中村　桃寧（岐阜市）　和田　智咲（郡上市）
藤川　　楓（各務原市）　伊佐治琉那（美濃加茂市）
白木　　葵（本巣市）　小藤　杏友（美濃加茂市）
堀　　希実（羽島郡）　平田　健人（加茂郡）
勝　咲来歩（不破郡）

なぞなぞの答え

①そこ（底）　②パパイヤ

岐阜市立茜部小学校　ふるさとの伝承

本校の歴史は古く、令和三年で創立百三十八年目を迎えます。小学校には立派な北門がありますが、現在はこの門をくぐって登校する子はいません。学校の南と西側に広がる広大な田畑は、国道21号線が拡張されるにつれて、次第に宅地や大型店舗に代わり、現在の正門は西側に移っています。

ふるさとを学ぶ学習は、主に三年生と五年生で学んでいます。三年生では、古くから伝わる茜部の歴史や昔の人々のくらしを、総合的な学習の時間や社会科で学んでいます。

まず子どもたちが訪れるのは茜部神社です。ここでは、地域の方が詳しく、茜部の地名や歴史について教えてくださいます。茜部は古くから恵まれた農地であったことがうかがえ、平安時代には東大寺の荘園として栄え、絹や綿などを納めていたことが記録に残されています。神社には、斎藤道三などの戦国大名や歴代の加納城主が寄進した宝物が多数残されています。戦に巻き込まれたこともあったそうで、六年生になると、表舞台にもなった茜部の歴史を、より臨場感をもって身近に感じることができます。

次にJA茜部支店の三階に常設されている郷土資料館に見学に行きます。ここには、地域の方たちが使用していた農具や生活用品が数多く展示され、実際にふれることができます。当時を知る地域の方が、ご自身の思い出を交えて楽しく丁寧に教えてくださいます。

五年生になると、米づくりサポーターの方にお世話になりながら、米づくりの体験学習を行います。令和二年度はコロナ禍のため、もみまきと田植えはできませんでしたが、稲刈りを体験しました。慣れない手つきで作業した後は、米づくりサポーターの方が機械を使って一気に仕上げを行ってくださいました。機械を使っても丁寧に作業されるサポーターの皆さんの姿から、お米を大事にする気持ちは変わらないことを理解しました。

現在も目まぐるしく景観が変化している地域ですが、学習後の子どもたちは、自分たちが住んでいる地域が、歴史や地域の方々の熱い思いに支えられた「ふるさと茜部」であることを実感することができました。子どもたちはこれからの自分とかかわらせながら、新聞やお礼の手紙に成果をまとめたり、お世話になった方々を招いて感謝の会を開催したりしています。

▲米作りの工夫や大切にしていることなど、たくさんの質問に答えてくださいました。

▲稲の成長の様子を何度も観察して、水の管理の難しさも知りました。

▲道具を使ってみると、昔の人たちの生活の知恵や努力がとてもよくわかりました。

▲心配された台風の被害もなく、７俵も収穫できました。

▲難しい歴史もわかりやすく、茜部神社の前で教えていただきました。

▲小学生だった頃の思い出を交えて、昔のくらしを教えてくださいました。

▲祭りに使う道具やお宝がたくさんあって、博物館みたいでした。

地域と共に歩む茜部小学校

大垣市立北小学校は、大垣駅の北に位置し、全校児童約七百二十名の学校です。近くには、大垣駅や大規模商業施設の他、野球場や競技場などの公共の施設があり、子どもたちが、多様な学びができる環境が整っています。環境に加えて、地域の皆様には、クラブ活動での地域講師、地区センター祭りなどの地区行事で毎年お世話になり、「ひとりひとりが北斗の星」の学校目標の具現に向け、子どもたちの成長を支えていただいています。しかし、伝統あるこれまでの取組も、令和二年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、やむを得ず中止をするしかありませんでした。

制限が多い中、学校と保護者の皆様とは、常に「この状況下でも、できることは何かないか。」と知恵を絞ってきました。

「北小オリンピック」

大規模校である本校は、密を避けるために運動会も中止となりました。そこで、代わりに「北小オリンピック」と称して、ドッジボール大会を開くことにしました。もちろん、全校が一堂に会することはできませんので、前半は、挨拶や掃除等の日常生活について、団ごとに取り組みました。後半は、低学年と高学年のペア学年で、三日間に分けてドッジボール大会を実施しました。「こんなに楽しいドッジボールをしたのは、はじめてでした。」という感想が出るほど、多くの児童が開放感と一体感を感じることができました。

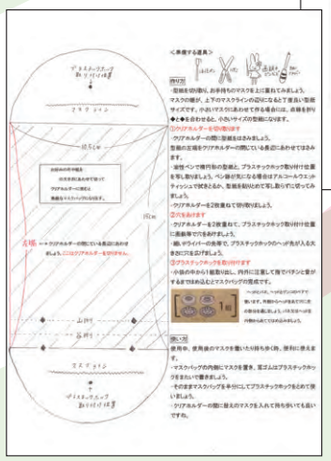
思い切り体を動かして
楽しい時間になりました。

北小オリンピック

「家庭教育学級」も工夫をこらして！

PTA活動も、保護者の方々が、知恵を出し合い、新たな形での取組をいくつか試みてくださいました。家庭教育委員会では、「親子で作ろう！～MY マスクバッグ～」を全校児童の家庭に向けて実施しました。在宅型の取組で、材料が全戸に配布されました。作成方法は、文書に加え、ユーチューブでも配信されました。「作り方が分かりやすく、親子でコミュニケーションを図りながら楽しく作れた」といった感想がたくさんありました。

「親子で作ろう！」
～My マスクバッグ～
マスクバッグの材料と一緒に
配付されました。



作り方の文書に加え、
ユーチューブでも動画配信が
されました。

「学びの楽しさ」を求めて ～ICTを活用した授業～

コロナ禍で大いに変わったことの一つに、「ICTを活用した授業」があります。北小学校では、子ども達が主体的に学ぼうとするのは、楽しい授業の時である、と「学びの楽しさ」に着目して取り組んできました。昨年度には、市より一人一台タブレットが貸与され、今後、ますます個別学習や多様な表現の充実が期待されます。

オンラインでの集会
のために接続テスト中。

タブレット貸与式
これから、大切に使います。

それぞれの考えを一つの
画面で共有。

算数の授業
「三角形と角」
ぼくは、こう考えたよ。

夢中！熱中！我らが部活

剣道部

私たち剣道部は、3年生4名、2年生1名、1年2名の7名で活動しています。

剣道を通して、自分の生き方を磨けるように、一試合でも多く勝てるように、全員で声を掛け合いながら、練習に取り組んでいきます。

バレーボール部

私たちバレーボール部は、3年生11名、2年生2名、1年3名の16名で活動しています。

初心者ばかりですが、チームスローガンの「繋ぐ」を意識して、声を出し、最後まであきらめない気持ちで取り組んでいます。1つでも多く勝てるように全員で頑張ります。

男子卓球部

男子卓球部では、2年生3人・1年生5人で活動をしています。ほとんどが初心者です。映像から学んだり、自分の姿を動画で撮影したりして、工夫して練習をしています。お互いアドバイスしやすい仲間関係で、切磋琢磨しています。

女子卓球部

女子卓球部では、3年生4人・2年生6人・1年生4人で活動をしています。人数が少なく未経験者が多いので、全員で声を掛け合いながら練習に取り組んでいます。

まだまだ試合の経験等が少ないですが、先生や部活の仲間と協力して試合で勝つことができるようにしていきます。

陸上競技部

陸上競技部は2年生3人で活動しています。1,500m走と100m走への出場をめざしてスタート練習、インターバル走を中心にトレーニングを積み重ねています。昨年度は大会への出場がなかったので今年度は自己ベストを出せるよう励まし合っていきます。

卓球部

全員で声を出す、全員で準備する、全員で挨拶する…富野中卓球部の合言葉は「全員で」です。周りから愛されるチームを目指し、いつでも自分から行動することを大切に26名で日々の練習に取り組んでいます。

女子バレーボール部

初心者の1年生を含んだ8人の小さなチームです。いつも応援し、支えてくださる全ての人への感謝の気持ちを忘れず、全員が自分のため、仲間のために常に精一杯取り組むことで、信頼し合えるチームを目指しています。

野球部

中濃ファイターズは、津保川中と富野中の合同チームです。2010年から共に活動しています。「走姿顕心」のスローガンのもと、1試合でも多く勝てるように努力しています。練習中の全力ダッシュ&声出しにこだわっています。

トレーニング部

校外のクラブチーム等の活動に参加する生徒が所属しています。持久力や柔軟性、体幹を鍛え、怪我をしない体づくりをするとともに、それぞれの目標達成（レギュラーや大会出場、入賞など）を目指し活動しています。

私たちのPTA

羽島市立正木小学校PTA

登校再開後の見守り

７月の常任委員会

ベルマークの集計

愛校作業の活動

はじめに

羽島市立正木小学校は、羽島市の北東部に位置し、木曽川の豊かな水の恵みを受けて緑豊かな田園や蓮田、住宅地が広がる校区です。

学校の教育目標「願いをもって　自分を磨き　仲間と拓く」のもと、正木小学校の「四つのじまん」として、さきがけ挨拶、まさき掃除、美しい環境づくり、ボランティアの活動に取り組んでいます。

安心・安全な学校生活が送れるように、家庭、地域、学校が連携し手を取り合いながら全校児童七百五十八名の健やかな成長を願い教育活動をすすめています。

PTA紹介

今年度の入学式では、「PTAは、みんながもっと楽しく、もっと前向きに学校で過ごせるよう応援するチームです。」とPTA会長より、一年生の児童に向けて力強く話がありました。

PTAの活動目標の三つの柱「家族の絆を深め、温かい家庭づくりをめざします。」「地域とのつながりを深め、地域参加をすすめます。」「学校との連携を深め、子どもを育みます。」を大切に、PTA活動をとおして、学校と家庭がコミュニケーションをとり、子どもたちがより穏やかで健やかな学校生活が送れるようサポートしています。

PTA活動について（昨年度の活動内容）

地区委員会、保健安全委員会、ベルマーク委員会、広報委員会が組織されています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として、PTA活動も多くの制限の中で、活動を行ってきました。PTAの実行員会が開かれたのも七月に入ってからでした。感染対策を行いながら「できることから」活動をすすめました。

地区委員会

通学班の登下校等、地域の皆さんと一緒に子どもたちをいつも見守りました。

通学路での危険箇所の確認など地域と学校をつなぎ、子どもたちの安心・安全に欠かせない活動を行っています。

保健安全委員会

昨年度は、給食試食会や給食参観は中止となってしまいました。家庭教育学級も担う委員会です。今年度は、親子で学ぶ情報モラル教育や保護者による読み聞かせボランティアの活動など、新たな活動を計画しています。

ベルマーク委員会

ベルマークやインクカードリッジの回収、ベルマーク集計など行っています。より多くの協力が得られるよう進めています。集計作業は細かで地道な作業ですが、子どもたちのよりよい学校生活への一助となるよう活動しました。

広報委員会

広報誌を二回発行しました。昨年度の入学式は、グランドを会場とした青空入学式でした。いろいろな場面でコロナの影響を感じました。

広報誌を通して子どもたちの元気な姿や、PTAの活動など紹介しています。

愛校作業

昨年度、多くの皆さんの参加を呼びかけることができたのは、十一月に行った愛校作業の活動でした。屋外での清掃活動がメインの活動で、広い学校施設の中の日ごろはできない場所の整備に取り組みました。

おわりに

コロナ禍の昨年度、そして今年度、PTA活動も「できることから、工夫して」「よりよく形を変えて」活動を模索している状況です。これを機に、よりよいPTA活動の在り方をもう一度考えて組織の編成や活動内容を精選していくこともより息の長いPTA活動へつながることであるとも考えます。

根底は「こどもたちの健やかな成長のために」。この思いは、正木町に住み子どもたちとかかわる全ての人が共通に願うことです。

子どもたちを育めるよう今後も、地域、家庭、学校の連携、協力を続けていきます。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

土岐市立濃南小・中学校

R3小・中入学式

小・中合同の入学式を初めて行いました。

命を守る訓練

小・中合同の命を守る訓練では、小・中交えて消火訓練もしました。

小6緑の少年団椎茸菌打ち

地域の森林組合の方の指導の下、小学６年生が、地域特産物の椎茸の菌打ち作業を体験しました。

中馬街道整備中

中学生と地域のお年寄りとで中馬街道整備活動をしました。ぬかるんだ道の側溝づくりをしたり、滑りやすい落ち葉を熊手でかき分けたりして道を整えました。

鶴岡山（曽良山）登山 学校が見えた

小学校全校で、土岐市で一番高い山（鶴岡山・曽良山）登山をしました。開けたところから、濃南小・中学校をみつけることができました。

中馬馬子唄踊り

中学１年生は、中馬馬子唄踊りを保存会の方から学び、踊りの伝承をしています。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和3年度　初夏号
第73巻1号　通巻466号

発行／令和3年7月1日　岐阜県PTA連合会
〒500-8816　岐阜市菅原町3-3　岐阜県校長会館内
電話／058（262）3257　FAX／058（262）3259
Eメール／info@gifu-pta.jp　ホームページ／https://gifu-pta.jp
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社